

かねざわ 第50号

平成26(2014)年8月

おかげさまで会報は 50 号を迎えました!
50 号記念特集 会報の歴史と会員の記念寄稿 (p 2~14)
分科会からの便り 「パソコン何でも相談室」開始 (p32)
歴史研究 「幕末・維新期の鶴岡八幡宮」(p33)



次

会報 50 号記念

- 2 会報 50 号記念号について
編集委員長 大門利晴
- 3 会報 50 号に寄せて
“わ” の会代表 今井鎮夫
- 4 会報の歴史・現状・今後
- 50 号記念 会員からの寄稿
- 7 会報「かねざわ」50 号発行に寄せて
内田孝知
- 7 “わ” の会 あれこれ
太田耕蔵
- 8 「歴史」大好き
小倉英明
- 9 よい舞台…ありがとう
北野清市
- 9 シニア世代へおすすめ熊野古道
貞廣長昭
- 11 「歴史の中の庶民女性」雑感
高杉和江
- 12 “わ” の会はエンドレスを祈念して
山本千鶴子
- 13 遙かなる早池峰
渡邊紀一

運営委員会からのお知らせ

- 15 探訪(第 6 回学習会)のお知らせ

学習会

- 16 学習会の概要とアンケート結果

分科会からの便り

- 22 「懐かしの映画」鑑賞録 No.15 佐藤 晃
- 25 「浮雲俳句会」抄録 No.26 北野清市
- 29 「ふれあいの道歩こう会」定例会概要 No.6
小俣悦男
- 30 「古文書を読む会」からのたより (4)
真田雅行
- 32 パソコン何でも相談室【1】 林 洋

歴史研究

- 33 幕末・維新期の鶴岡八幡宮 山田 務

39 事典編集委員会報告

39 訃報

行事予定

- 40 9月~11月



金沢区生涯学習 “わ” の会

ホームページ:<http://kanazawa-wanokai.in.coocan.jp/>

メー ル:yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

会報 50 号記念号について

編集委員長 大門利晴

行きがかり上、“わ”の会の会員になったのが平成22年、そしてまた行きがかり上、編集委員長を任されたのが翌23年の38号から。その時既に会報のスタイルは先輩の知恵と努力があって確立されていた。創刊時の助走期間から30号ぐらいまでの離陸期間は多分相当に苦勞され、かなりの試行錯誤があったに違いない。安定飛行時間にあって引き継いだ私なんぞにとっては、格好のパソコンソフト「ワード」の実践的な練習の場を与えてもらったというのが正直なところである。

かような次第で「編集方針は？」と言われると正直持ち合わせるものがないし、編集委員会でも特に議論したことはない。しかし、50号に至る過程で次のような方針と問題が編集委員に共有されていると勝手に思っている。

1) 当然、“わ”の会のPR誌であることそしてその活動のデータベース的な役割を果たすこと。

“わ”の会の永続性を担保するためには、運営委員が替わっても過去の活動を参照して新しい活動に資するような記録的要素を残すことにしている。従って「運営委員会からのお知らせ」に若干くどさを感じることもあるかもしれないが、かような理由にもよる。ご寛恕いただきたい。

“わ”の会は「『金沢の歴史』を学ぶ」ことを軸とする生涯学習の会です。「歴史研究」の披瀝の場をと思うのであるが、如何せん一部の方に「おんぶにだっこ」状態である。この項の筆者を広げたいと思っている。その人材の発掘にご協力をお願いしたいものです。

2) 分科会の機関紙的役割を果たすこと

少しずつ様になってきたと自負するところだが、各代表の負担を軽減するためにも各分科会会員の体験記なども掲載できたらと思っています。

3) 編集委員会が最も期待するのが「会員同士の体験・想い・疑問等の交流の場」であること。

しかし残念なことに「会員からの寄稿」が少ない。編集委員全員寂しく思うところだ。どうぞあまり構えることなく気楽に寄稿していただきたい。「あの人があんなことをしたんだ・しているんだ・思っているんだ」と会員同士、新鮮な感覚を交流、「輪」・「和」のこと、“わっ！”と新鮮に驚きたいものです。

会報の原稿は寄稿者のボランティアで成り立っています。従って編集者は「て・に・お・は」等のご本人の勘違い・入力ミス of 修正以外は原則原稿のままとしています。意味の分かりにくいところはご本人に確認、訂正して掲載することにしています。勿論公序良俗違反は御法度。ご理解願います。

ところで50号記念を機に

1) 1～50号をCD化、9月の学習会時には全員に配布します。

2) 会報のフォントを明朝体から柔らかくて読み易い丸ゴシック体を原則と改めます。

ただし「倭」、「和」の観点から丸ゴシック体は時に違和感を覚えることがあります。筆者希望の場合は寄稿のハードルを低くするため明朝体とします。

次の100号はさらに充実しているものと確信しています。

会報 50 号に寄せて

“わ”の会代表 今井鎮夫

会報発行 50 号おめでとうございます。そして会報編集委員の方々、まことにご苦労さまでございます。深く感謝申し上げます。

年 4 回の発行という、3 ヶ月に 1 度になりますが 1 号を出すと、もう翌月には次の号の準備に入らなければならないでしょう。休む間もありません。編集会議を開き、原稿を依頼し締切りまでに頂戴して、それを割付したページに落とし込み、見出しを考え組版を作って校正作業にかかると思います。そして活動センターで印刷し、丁合作業です。まだ抜けている行程があるでしょうが、とにかく 1 号発行するには、手間ひまと気苦労がたくさんいります。大門編集長はじめ現編集委員、歴代の編集委員の方々、ほんとうにご苦労さまでございました。

毎号 20 ページを優に超える会報「かねざわ」は、横浜開港資料館や横浜市歴史博物館、区民活動センターにも配っており、好評です。実際、「フォーラム KANAZAWA」で会報を展示していたとき、他の歴史の会の人々が「どうしたらこのようなボリュームある会報が作れるのか」と不思議がっていました。会報発行は、当会の自慢すべき活動だと考えております。

編集委員が一番ご苦労なさるのは、原稿依頼ではないかと思います。そして、編集の苦労がずっとぶのは、面白い原稿を手に入れたときではないでしょうか。会員の皆様、謙虚・控え目も結構ですが、ありあまる知識や卓見をお持ちなのですからもっととどんと会報に原稿をお寄せくださることを熱望いたします。「書く」という行為は脳の活性化、若返りと関係あるのではないかと勝手に思っております。

また、会員の皆様には会報を注意深くお読みくださるようお願いいたします。運営委員会からの重要なお知らせが載っております。ホームページとともに参考にさせていただけたら幸いです。

最後になりますが、50 号を記念して 1 号～50 号までの会報データを 1 枚の CD に取り込み、全会員に配布すべく会報編集委員会が準備を進めております。近々皆様のお手元に「会報 CD」が届くでしょう。内容には資料的価値もありますし、会の歴史や会員の足跡も振り返ることができます。「紙」の会報と同様にどうぞご利用くださるようお願い申し上げます。



会報の歴史・現状・今後

会報の創刊は平成 14 年 5 月。当会が 3 年間の金沢区からの委託事業から自主事業に移行した年である。年間発行数は 4 号。発行月は 5、8、11、2 月。発行部数は会員数＋アルファ。平成 26 年 8 月の発行号で 50 号となる。この月が創刊から 12 年と 3 ヶ月目で、

4号/年 × 12年 + 2号 = 50号 である。

創刊号から 50 号までの全バックナンバーをホームページに掲載している。また、50 号発行を記念して全バックナンバーを搭載した CD を会員の皆様に配布します。

1. 会報の歴史

1. 1 40 号までの歴史

創刊号から 40 号までの歴史については、次の資料に記されている。

(1) 『“わ” の会 5 年の歩み』

創刊から 10 号（平成 16 年 8 月）までの歴史が書かれている（平成 16 年 11 月発行）。

創刊決定までの経緯、創刊決定を受けての当会マークとなった表紙デザイン、創刊号のメイン記事の内容についての記述と、1 号から 10 号までの発行日と掲載項目の一覧表がある。

(2) 『“わ” の会 10 年の歩み』

創刊から 28 号（平成 21 年 2 月）までの歴史が書かれている（平成 22 年 5 月発行）。

最初に、概要として、『“わ” の会 5 年の歩み』で記した、創刊決定までの経緯、創刊決定を受けての当会マークとなった表紙デザイン、創刊号のメイン記事の内容について、若干の補足をつけて再度述べ、続いて『“わ” の会 5 年の歩み』発行から『“わ” の会 10 年の歩み』発行までの概要として、平成 19 年 5 月に会報発行満 5 年を向え、記念の会報 21 号を発行したこととその企画内容を記している。

次に、創刊号から 28 号発行までにおける、掲載内容、紙面サイズ、ページ数、表紙デザイン、本文の体裁（記事の分類見出し、各記事のタイトル、記事本文の 2 段組化、写真・イラストの挿入など）の各項目についての変化の様子を記している。

(3) 会報 40 号（会報発行 10 周年記念号）

会報 40 号（平成 24 年 2 月）の冒頭に『会報発行 10 周年記念号について』、『会報発行

10 周年記念号に寄せて』、『座談会：会報発行 10 年の思い出と展望』の 3 つの記念記事がある。

(a) 『会報発行 10 周年記念号について』

記念企画決定の経過と結果が記されている。会員からの記念寄稿が 16 件も集まったこと、10 年を振り返っての座談会記事を掲載したこと、会報の名称を次の 41 号から「かねざわ」とし、表紙デザインを新しくすることが述べられている。

(b) 『会報発行 10 周年記念号に寄せて』

「歴史研究などの会員からの寄稿」、「分科会からの活動状況報告」、「運営委員会からのお知らせ」など、双方向性を意識した紙面作りに努めている。会員の絆の役割を担っており、その充実には会員の皆様からの積極的な寄稿が不可欠としている。

(c) 『座談会：会報発行 10 年の思い出と展望』

会報創刊の動機と目的、会報発行体制と方針、表紙デザインとシンボルマーク、創刊号発行、創刊時代の編集作業、会報の内容充実と原稿集め、紙面レイアウトの改善、編集上の悩み、印象に残る記事・企画、表紙の変遷、会報の成果・効用、今後の展望 について語られている。

1. 2 41 号以後の歴史

40 号までの歴史は上記の資料を参照していただくとして、以下では 41 号から 50 号までの間での出来事や上記のものでは述べなかったことを記す。

(1) 会報表紙の変更

41号(平成24年5月)から、会報の名称を「かねざわ」に変更し、表紙のデザインを現在のかたちに改めた。その経緯は、上記の(3)(a)で記された通りである。

(2) 掲載内容の増加

(a) 学習会の概要

学習会の報告は2号(平成14年8月)から掲載している。その内容は、学習会ごとに集めたアンケートに書かれている会員の皆様からの感想コメントの要約集で、アンケートに書かれている情報の一部分であった。11号(平成16年11月)からは講師の顔写真掲載が始まり、29号(平成21年5月)からはアンケート結果の全体を掲載するようになった。

学習会の報告でありながら、学習した内容の報告が無いことが会報編集委員会で問題になり、38号(平成23年8月)からは編集委員が交代で学習会の概要を執筆し、掲載するようになった。

(b) 分科会からの便り

分科会の予定は2号から毎号掲載となっているが、実施結果は不定期な掲載であった。実

施結果の定期的掲載で、会報に分科会の機関紙的役割を与え、分科会と分科会に属さない会員の間での情報共有強化を目的に、25号(平成20年5月)から「浮雲俳句会」の句会ごとの秀句報告連載が始まった。続いて、32号(平成22年2月)から「パソコンを使いこなす会」のPC One Point Advice(37号で中断)、36号(平成23年2月)から「懐かしの映画を観る会」の鑑賞映画解説書、45号(平成25年5月)から「ふれあいの道歩こう会」の実施概要報告、47号(平成25年11月)から「古文書を読む会」の解説古文書内容紹介の連載が始まった。また、50号から「パソコンを使いこなす会」の連載が『パソコン何でも相談室』と名を変えて再開した。

分科会ごとに活動内容が異なり、会報掲載には適・不適がある。「寺社を巡る会」については会報掲載は不定期であるが、ホームページでは定期的に行っている。「古文書を読む会」「ふれあいの道歩こう会」「なつかしの映画を観る会」「浮雲俳句会」は定期的な併用となっている。

2. 会報編集の体制の歴史

(1) 編集長

編集委員は、各分科会に属する委員と運営委員会に属する委員で構成されている。編集長は運営委員会に属する委員が就任しており、歴代の編集長および編集長代行は

小岩氏：1号(平成14年5月)～36号(平成23年2月)

金間氏(代行)：37号(平成23年5月)

大門氏：38号(平成23年8月)～

である。

(2) 紙面割付・印刷原稿作成担当者

集まった原稿を会報の形にするために紙面の割付を行い、印刷原稿のかたちに仕上げる作業は編集委員の1人が担当している。その変遷

は次のようである。

小岩氏：1号(平成14年5月)～7号(平成15年11月)

金間氏：8号(平成16年2月)～29号(平成21年5月)

新海氏：30号(平成21年8月)～36号(平成23年2月)

金間氏：37号(平成23年5月)

大門氏：38号(平成23年8月)～

金間氏が担当になってから作業の完全PC化が進み、ワードの機能活用による割付の多様化が図られた。また、毎号のデータの保存・蓄積・再利用がされるようになった。

3. 各号の企画から会員の皆様のお手元に会報が届くまでの現状

(1) 企画・原稿依頼・執筆割当

各号ごとに編集委員会が開催され、企画(目

次案作成)・原稿依頼割当・原稿執筆(「学習会の概要」、「編集後記」など)割当を行っている。

また、目次案を運営委員会に提出して承認を得ている。

(2) 原稿執筆・原稿集め

担当の編集委員は担当の学習会が終了すると、その概要を執筆する。写真担当は講演が始まる前に講師の許可を得て、講演中の講師の顔写真を撮影。

原稿の締切りが近づくと、未着の原稿について執筆依頼先に確認の連絡をする。

担当の編集委員は、編集後記執筆の準備を始める。

(3) 査読

編集長の元に集まった原稿は、編集委員が分担して、誤字脱字などを中心に査読を行う。問題が見つければ執筆者に連絡する。

(4) 紙面割付・印刷原稿作成

集まった原稿を会報の形にするために紙面の割付を行い、印刷原稿のかたちに仕上げる。この作業は編集委員の1人が担当している。

(5) 校正・承認・修正

紙面の割付が終了した段階で、その間におけるミス発見の校正作業を編集委員が分担して行う。また、運営委員会に提出して承認を受ける。運営委員会で発見されたミスや要請に基づいて原稿の修正を行う。

(6) 印刷

印刷はA3用紙の表裏に行い、2つ折りにし、ページ順になるように重ね合せて完成となる。

パソコン内で作られた印刷原稿は手持ちのプリンタで出力を行うため、A4用紙に1ページずつ印刷されたものになる。これをA3用紙の表裏に印刷するためにはかなりの注意を要する。そのため、あらかじめA3用紙の表裏にA4用紙に出力された印刷原稿を貼り付けて、完全なA3サイズの印刷原稿を作ってから、印刷作業にかかっている。

印刷そのものは区民活動センターの印刷機を利用している。また、2つ折りの作業には区民活動センターの折り機を利用する。2つ折りしたものを重ね合わせる作業は人手で行う。印刷、2つ折り、重ね合せ作業は、多くの場合、学習会資料の印刷と同時に行うため、運営委員が行う場合が多いが、時には編集委員が参加することもある。

(7) 配付

印刷できたものは運営委員が自宅に持帰り、学習会の当日に会場に持込み、学習会資料とともに会員の皆様に配付する。欠席者の分は担当の運営委員が一旦自宅に持帰り、次回の学習会の会場に再度持込み、出席の場合はそこで手渡すことになる。

4. 今後について

(1) 運営委員会からのお知らせ

運営委員会と会員の皆様をつなぐものであり、“わ”の会運営の透明性を保つために、運営に関わる情報をタイムリーにかつ分かりやすくお伝えすることに努めたい。

(2) 分科会からの便り

分科会の機関紙であり、分科会と会員をつなぐものであり、活動内容や成果を掲載することで、活動内容や成果を分科会内および全会員との共有、成果の披露による分科会活動の活性化に役立つことに利用をお願いしたい。

(3) 会員の寄稿

随筆や紀行文が減っている。上手な随筆や紀行文が掲載されると、その後が続きづらくなる。

また、年とともに文章作成が億劫になるなどの理由が考えられる。短文で結構、写真と短いコメントのセットでも結構。我々は素人集団。長短・上手下手など気にせず、寄稿してください。

歴史研究は、時々途切れるが、続いているのはありがたい。分類名の「歴史研究」にふさわしい寄稿が多かったので、敷居が高く感じられるでしょうが、我々は歴史や執筆の素人集団ですから、内容的にはチョッと調べた結果や人から聞いた話、これから調べたい内容でも良い。量的には400字程度でもOKです。敷居は低い、いや敷居はありませんので、寄稿をお願いします。

会報「かねざわ」50号発行に寄せて 内田 孝知

会報50号発行おめでとう御座います。ここまでの道のり、編集委員の皆様、原稿を投稿された会員の皆様、全体を支援された先輩諸氏のご苦勞、如何ばかりのものが有ったかと推察するにつれ、本当にご苦勞様でしたと申し上げる以外言葉は有りません。

50号は年4回発行で足掛け13年の年月の積み重ねです。私は今までの人生の中で“継続は力なり”を常に意識し、若い人達にもその事を強くアピールして来ました。そのような中ででの経験を振り返ってみましても50号は素晴らしいものと感じます。

これからも70号、80号、そして100号

へ向けて進んでゆくには会員皆様のご協力とベースとなる“わ”の会がしっかりと継続発展して行かなければならないと感じています。

私も2011年9月より、正式には2012年5月総会からですが、運営委員会に参画させて頂き、あっという間に、かつ大した事もやった記憶も無く3年近く経ってしまいました。

月日の経つのは本当に早いものです。これからも“わ”の会と会報の継続発展に微力ながら尽くして行きたいと考えています。どうぞ宜しくお願いします。

“わ”の会 あれこれ

太田 耕蔵

“わ”の会は「金沢の歴史を学ぶ」ことを基幹として6つの分科会活動を通じて地域の仲間づくりを助ける生涯学習団体であるが、“わ”の会と会員をつなぐ会報発行が50回を迎えたことは素晴らしいの一語に尽きます。会報委員会のメンバーに敬意を表したい。

俳句との出会い

比較的行動派で文化芸術にはほとんど才能も縁もなかった人生でしたが、俳句は小学校か中学校で習った記憶もあり、自分でもやれそうだとチャレンジも含めて「浮雲俳句会」に入会しました。どんなことでもリーダー、先生が大切ですが、「浮雲俳句会」は遅まきの俳人とお聞きする北野一清代表に指導を受けられ幸せな結社と言えます。

俳句とは「有季」「定型」の「詩」である。

有季とは季語(季題)が俳句のどこかにあることで、『歳時記』には春・夏・秋・冬と新年別に一万五千程が収録されている。定型とは十七音五七五であることである。詩である以上リズムや響きがあり読み終わった後に余韻が残らねばなりません。入会して満8年になり、やっと自然や四季の風物を自分の狭い主観写生から、無心になって眺めるまでには到底行きませんが客観写生に変わってきたことに気づきます。又、季語は季節感を表す言葉ですが、日本の伝統美・風土・文化性を内蔵したものであることをようやく理解できるようになりました。

「浮雲俳句会」は文語・旧かな表記の伝統俳句を指向していますが、若い世代などには口語表記の俳句、季語なしの俳句、海外では十七音ではなく三行詩俳句が盛んに作られています。

しかし、俳句には日本のわびさびの美、伝統の美が似合うように感じます。

俳句は一瞬の感動を五七五に表現することですが、その道は奥深く遠くて到底到達できませんが、心身の健康維持のためにも続けていきたいと思っております。北野代表の末永いご指導をお願いしたい。

大橋新太郎別荘跡碑

平成26年4月、西柴団地住民有志が西柴団地内金沢町第二公園に、氏の生誕150周年を記念して大橋新太郎別荘跡碑を建立しお披露目をする事が出来ました。“わ”の会の小俣悦男、吉田純一の両氏を含めた発起人10名が地域住民から一口千円の協賛金を募り、213口の協力を得て実現しました。大橋新太郎については“わ”の会の2回に亘る学習会で取り上げていますので省略しますが、関東大震災後の称名寺の復興、金沢文庫の復興等に貢献した金沢区の恩人ともいえる人物です。時あたかも、金沢区の進める「歴史資産のあるまち・かなざ

わ歴史プロモーション事業」の一つとして評価され、案内看板の設置協力を得ることが出来ました。“わ”の会で学習したことが別荘跡碑建立のプロジェクトにつながり、歴史の掘り起こし、地域の活性化にいくらかでも貢献できたのではと喜んでおります。

もっと社会貢献を

“わ”の会は金沢区に数ある生涯学習団体のうち会員数、学習内容、分科会活動から見てレベルも高く地域に誇りうる団体であると自負できます。会員のための学習・会員の仲間づくりだけでなく、「かねざわの歴史事典」の発刊、年1回の「公開歴史講座」の開催など外に向けた活動を続けていますが、“わ”の会の発足から3年間（平成11～13年度）金沢区から毎年10万円の助成金、会場提供など物心の支援を受けたことを考えると、“わ”の会の力をもっと区民に還元し貢献できたらと思います。会員の皆さん如何でしょうか。

「歴史」大好き

小倉 英明

(一)

歴史に興味をもった切っ掛けは二つあります。小学生の頃、教室の黒板より上の壁の部分に「歴史年表」が大きく横断幕のように貼ってありました。

詳しく学習した記憶はないのですが、奈良時代（仏教国家の出現）、平安時代（藤原氏の台頭）、鎌倉時代（下剋上、群雄割拠）などその中に南北朝時代（天皇家の対立）があります。

天皇陛下は現人神^{あらひとがみ}。言葉を聞いただけでも直立不動、最敬礼、と毎日教育されていた時代の少年ですから、崇敬する天皇家が二分して対立、

相争うなんてびっくりで信じられませんでした。

もう一つは昭和二十年旧制中学校に入学して間もなく学友から「お前、2.26事件を知っているか。陸軍の一部の部隊が反乱を起こして、総理大臣をはじめ数人の大臣と、陸軍の幹部を襲撃したんだ」「あまり人前で話すと、憲兵に捕まるから注意しろよ」と言われました。

帰宅後、父親に尋ねましたが要領を得た返事がなくて、ますます実情を知りたくなりました。それから間もなく横浜大空襲、敗戦の混乱などで疑問は吹き飛んでしまいました。

(二)

平成五年、定年退職してからすぐに図書館かよいを思い付いたのも、心の奥底にあった日本史のモヤモヤ解消のためだったと思います。金

沢文庫へは休日、雨天を除く毎日、一年間通勤(?)しました。

これと併行して横浜駅東口・ルミネの「朝日

カルチャーセンター」で歴史講座「吾妻鏡を読む」を受講。講座は日本医大歴史学教授・奥富敬之氏で、かつてNHK大河ドラマ「北条時宗」「義経」で時代考証を担当されました。

講座は月二回（隔週土曜日）、一講座は二時

間。テキストは『全訳・吾妻鏡』永原慶二監修、貴志正造訳注（新人物往来社）で、全五十二巻の長丁場なので一巡読破まで凡そ十五年かかりました。

よい舞台…ありがとう

北野 清市

かねざわ50号記念号への投稿の依頼があった。すぐ頭に浮かんだのが、“よい舞台…ありがとう”のフレーズだ。振り返って見ると、私の場合、『会報』の発刊以来、毎号、寄稿させて頂いてきた。

初めは、分科会「寺社を巡る会」に参加して、毎回手作りの俳句を綴った分科会便り、《俳句寺社めぐり》からである。

当時の『会報』を出してみると、『会報』は全体で5頁。その2頁を、わが《俳句寺社めぐり》が占めていた。それだけに、何だか申し訳なく、果たしてこれで『会報』は、よいのであろうかと心配した。

因みに、《俳句寺社めぐり》は、爾来18回の連載をさせて頂いている。更に具体的には、《俳句寺社めぐり》は、H15年6月にスタートし、H19年12月までの4年半の記録である。この間、鎌倉の147ヶ所・湘南の10ヶ所・三浦半島の84ヶ所・それに地元金沢区の47ヶ所。計、288ヶ所の寺社や史蹟を探訪した結果の産物である。そしてトータル560句を18回にわたって、『会報』に登載させて頂いたのである。

続いては、“わ”の会5番目の分科会、「浮雲

俳句会」の活動状況を、会員の皆様にご紹介中である。それは、『浮雲俳句会』抄録。H20年5月の『会報』25号から、H26年8月の『会報』50号までの26回にわたって、継続させて頂いているのだ。

これだけのボリュームの俳句に、われながら驚いている。また、これだけのボリュームの俳句を、登載して頂いて有難う。サンキューという声がほとばしる。

それは何故だろうか。嚆矢の頃の『会報』は、僅か数頁のボリュームであったが、現在では30頁にもなんなんとしている。従って、嚆矢の頃は、われわれ作品（俳句）を提供するサイドとしては、少々遠慮しなければならなかった。しかし、「かねざわ50号」ともなると、堂々とした媒体である。

この点、役者の例に喩えれば、どさ回りから、都会の一流劇場の舞台に上ったようなものだ。彼らはここでこそ、最高のパフォーマンス即ち演技を披露出来ると思う。これは、現在の『会報』という舞台における、われわれ作品提供者サイドのスタンスと全く同じである。

よい舞台…ありがとう !!

ひぐらしのかなかなと鳴く日暮れかな 一清

シニア世代におすすすめ熊野古道

貞廣 長昭

和歌山県の熊野の語源は「隅野」「陰野」。中央から離れた辺界という意味。権力や強圧に屈せず自由の血が脈々とうつところであったようだ。昔、貴族や貴人がこそって参詣した「蟻

の熊野詣で」と伝えられた熊野三山（熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社）の旅をシニア世代にもおすすすめしたい。重畳たる山並みを縫うように走る古道は「祈りの道」であり、

心をいやす「癒しの道」でもあり緑濃い深山は
靈気がただよう神秘的な気持ちに誘われる。熊
野権現は女人禁制の多い時代にも男女、貴賤を
問わず参詣を受け入れていた。近年、「巡礼の

道」として世界遺産に登録された二つだけの巡
礼道。もうひとつはスペインのサンティアゴへ
の道。約 900 ㌾のサンティアゴ・デ・コンポ
ステーラの巡礼路だ。

日本・スペインが観光交流で協定

今年4月、熊野古道の主な部分を有する和歌
山県田辺市はスペインのサンティアゴ・デ・コンポ
ステーラ市と巡礼の道文化を世界に向けて発信
するため観光交流協定を締結し、観光振興と環
境整備保全に取り組むことになった。7月には世
界遺産登録 10 周年記念式典が熊野本宮町で開
催された。

熊野古道は主に6つのルートから成り立っている。
昔、貴族たちの御幸は京都を出発してから淀
川を下り摂津国渡辺に上陸した。そして①紀伊路

(大阪・渡辺津～田辺市約 180 ㌾)、②小辺路(高
野山～熊野本宮 70 ㌾)、④大辺路(田辺市～串
本～熊野本宮 120 ㌾)、⑤中辺路(紀伊田辺～熊
野本宮 65 ㌾)、⑥伊勢路(伊勢神宮～熊野本宮
160 ㌾)とそれぞれ別ルートに分かれた。

2000 年に「熊野参詣道」として国の史跡に指
定され 2004 年に「紀伊霊場と参詣道」の一部と
してユネスコの世界遺産に登録された。ただ、紀
伊路は含まれていない。



熊野古道 6 ルート

土砂降りの中を登坂して挫折した苦い経験

熊野古道の遺構の特徴は舗装に用いられた
石畳みが遺されていること。紀伊半島は降雨量
の多いところで江戸時代紀州藩によって整備

された。

何年か前に梅雨時の雨の中を那智勝浦町の
大門坂から踏破を試みて歩いたことがあるが

土砂降りの中、長い石段を 1 段 1 段登った。足元の杉の落ち葉の間に無数の沢蟹が這い回って、それを踏みつけないよう避けながら登ったが、行けども行けども坂道が続き、見上げるとはるか坂道の上には雲がかかるほど深い森林の山道。沢蟹は昔、行き倒れになった先人たちの化身のように思えた。合羽の中は汗づくで服を脱ぐにも脱げない、昔の人もこんな苦行をしたのかと考えながら数時間登り続けたが、とうとう足が動かなくなり挫折したことがあった。あのときは 65 歳を過ぎていたが体力的に無理だったのか。同行の和歌山県の若者が同情して下山を決めた。スケジュールの都合で強引な日程を組んだことを後悔した。結局、下山して別ルートで湯峰温泉の旅館にたどり着いた。後日、この体験を紀州の人に話すと「あのルートは初心者には無理ですよ」と諭された。しかし、これほどのうっそうとした深山をひたすら

徒歩で登る魅力は筆舌に尽くしがたい、もう一度チャレンジしたいと思う。

後年、改めて田辺市の中辺路、滝尻王子から古道に入った。多少上り下りはあったが、比較的平坦なルートで森林の中を歩くと、伏拝王子へほどなくたどり着いた。はるか遠方に大鳥居と本宮の森が望める丘だ。昔の人は苦難の末たどり着いたうれしさのあまり地に伏せて遥拝し喜んだと伝えられるところ。サンティアゴの道では「歓喜の丘」と呼ばれ目的地・大聖堂が望める丘。巡礼者たちは感動して喜びの声を上げるそうだ。

※（王子とは） 古道沿いに建立された熊野権現の御子神で多くの祠が設けられている。参詣途上に儀礼をおこなう処。奉幣と経供養（般若心経など読経）をする。九十九王子とはたくさんのお祠があるという意味。

《サンティアゴの巡礼路》

伝説によれば、イエスの 12 使徒のひとり、聖ヤコブがエルサレムで殉教後、遺骸がガリシアに運ばれ埋葬された。西暦 813 年、現在のサンティアゴ・デ・コンポステーラで隠者ペラギウスは天使のお告げによりヤコブの墓があることを知らされ司教と信者が墓を発見したとされる。そこに大聖堂が建立された。巡礼最古の記録は西暦 951 年、12 世紀には年間 50 万人が訪れたという。その後、巡礼路は整備さ

れ沿線にはロマネスク建築による教会や修道院が建てられた。現在の巡礼者のスタイルはホタテ貝をぶら下げ徒歩、自転車、車などさまざま。ガリシア政府は観光の目玉として巡礼路をアピールしている。

徒歩で 100 ㎞以上歩けば、巡礼証明書（コンポステーラノ）が発行され帰りの飛行機、鉄道料金が割引されるそうだ。

「歴史の中の庶民女性」雑感

高杉 和江

“わ”の会の会員は元気男性が多く女性はごく少数。でも、歴史に詳しく好きな女性が結構いるものだと感じています。会員に「歴女」が増えると会の雰囲気も変わるのではないのでしょうか。現代の中老年女性はなんといっても、時間とお金と自由な意思を持っていますから。

表題です。歴史ドラマや歴史小説には必要不可欠な存在である女性を主役格で登場させますが、歴史に関する本に出てくる女性の記述は、少ないように思われます。歴史の表舞台に出てくるのは殆ど男性。皇位を継承した女性天皇は結構いることに気付いたが、武士の時代になる

と、私の乏しい知識では、女性は北条政子くらいである。系図には、「女」と書かれており、固有名は無い。

歴史を動かすのは何でしょうか？

それぞれの時代の権力者の力関係・政治・宗教・文化・経済・自然災害・外交等の問題が大きくなり歴史が変わる。その中で、庶民の文化史や生活史は少ない様だ。古文書学習では名主が作る「お訴え書」や、役人や作家の旅日記で庶民の暮らしを多少知ることが出来るが、庶民自身からなる文書が少ないように思える。もの申すことや、伝える事が制約されたのだろう。庶民の読み書きが普及する様になったのは、江戸時代の寺子屋教育からだろうから、この頃庶民が書物で物事を伝える様になったのか。

時代の下流で時代を支えた人々は、本当はどのような生活をしていたのだろうか？まして過酷な農作業や労働等に携わりながら、子供を産み育てた女性、奉公という名の労働。時代を遡るほど、生まれた子供の生育率は今と比べ驚くほど低かった筈である。

昭和40年代に受けた授業や先輩看護職の話が今も残る。

当時は高度経済成長時代だったが、その数十

年前まで、バースコントロールの考えや知識・技術がない時代に、子を産めば食べてゆけない貧しさの中で、望まぬ妊娠をして、胎児を間引きしたことを。

「腹に宿った我が子を処分する」張り裂ける悲しみに耐えていたのは、女性である。

また古文書学習で知ったことであるが、宿場町の飯盛り女とは、貧しい農家が年貢を納められず、年貢の代わりに差出した娘が飯盛り女として働かされていた。飯盛りと夜の伴、その平均寿命は20歳代だったらしい。

何という早死にか。死して親許に帰してもらえたのだろうか？

東海道の相模の国の街道歩きで、ガイドさんから印象に残る話があった。

某墓所の一角に、飯盛り女の墓石が複数あった。没年齢は25～30歳と記憶している。通常葬られる事はなかったので、宿の主の計らいで特別だった様だ。

貧しくとも、命が繋がれ時代が繋がった。その延長線上に今の時代と自分達がある。これ以上出生率が下がらぬよう、若い世代を応援せねばと思う昨今である。

“わ”の会はエンドレスを祈念して 山本 千鶴子

人生は有限、誰でも平等にエンドが有るのは自然の理。古稀を迎える頃から私は気付かせられた事があります。

田舎家の庭の除草・剪定作業はエンドレスだと・・・。

春になると芽が出て花が咲き種子がこぼれて生い茂る雑草との格闘や、緑摘みや揉み上げを必要とする松の手入れや、花の咲き終わった時期に剪定を欠かせないツツジやサツキ、常に形を整えておく必要の有る生垣のサザンカや庭木のツバキやカシ等の剪定、そして芝刈り等はエンドレスの作業だと・・・。

母親役は子育て終了でエンドでは無くこれもエンドレスだと・・・。

結婚して子供を授かり家事・育児・生計を維持する為の就業等に関し、就業は定年迄でエンドが有り、育児等の母親役は子供が高等教育を終えて社会人となる（若しくは結婚する）迄でエンドが有り、生き続ける限り家事だけがエンドレスだと思っていたのですが、母親役も代替わりしてからの祖母役も生き続ける限りエンドレスの関わりなのだと・・・。

職業上の立場から交流の生じた多くの学生たちへの配慮や、娘時代から始めた趣味の茶道

で茶名拝受迄導いた弟子たちとの稽古もエンドレスの関わりだったのだと・・・。

時間的・身体的・経済的制約を受けて従来のように時間を割く事が不可能になってきている囲碁と写真も、切磋琢磨して腕を磨こうとすればする程にその奥の深さが垣間見え、これらの分野も正にエンドレスだと・・・。

エンドレスの係わりだと思ふ事の出来る事

柄を列挙して、その事柄が多ければ多い程、その人は毎日を前向きに未来に向かって生き続けていると言う事が出来るのだと誰かが話されていたように思います。

この“わ”の会も常に若返りを図り企画を充実させ続けるエンドレス（終わりの無い）会である事を祈念して、会報 50 号記念号の原稿として投稿させていただきました。

遥かなる早池峰

渡邊 紀一

10 年ほど前、緑濃い歴史の街、ここ金沢の地に終の棲家を構えた。しかし、皮肉にもその歴史観を深めていくと、この街が、軍需の街であったことを否応なしに思い知らされる。しかしそれも歴史の一部であると受け入れた。鎌倉だ、八景だ、北条だ、だけが歴史の全ではなかったのだ。

葉桜の頃、金沢中学校の西側に位置するここは小泉住宅の一角にある釜利谷第二公園内「第一海軍技術廠支廠跡記念碑」を訪ねた。我が家から二十分ほどの所に位置するのだが久しぶりに見て、こんなに大きかったかと思った。黒御影石の碑の裏側に回ってみた。そこにはこの技術廠（廠は工場の意）に関わった若者たちの出身校が刻まれていた。その中に「遠野高校 代表菊池某」の文字を目にした。遠野はあの「遠野物語」の遠野である。菊地姓は岩手県に多い姓で全所帯の 20%を占めるという。戦火は岩手県の奥深い若い人々にまで及んでいたのである。

岩手県には思い出すことが多い。

昭和 35 年、工業高校を押し出されるように卒業する。それから 30 歳までの約十年間私は登山うつつを抜かしていた。その頃、日本人マナスル登頂成功・井上靖著「氷壁」がベストセラーになる。一方でシゴキなど社会問題なども孕んでいたが登山ブームの様相を呈していた。またレジャーブームの先駆けでもあった。北アルプスを好んだ。勿論、まだ元気の盛りで 3000 米級のピークハンターだった。

まだ深田久弥著「日本百名山」が世に出る前である。山は「高さが故に尊い」と思っていた。不遜な頃だった。ある年の夏、名前に惹かれたのか「早池峰」の山行を思い立った。しかし早池峰に関する知識は全くない。周囲に同行を求めたが、「キタだ、ミナミだ、ヤツだ、オゼだ」と取り付く島もない。私は意を決していた。しかし、案内書は見つからない。早池峰を登ってから八幡平そして盛岡、陸中海岸の周遊を考えていた。この早池峰山行を契機に山への憧れが変わったと思う。翌年の夏からは飯豊、朝日連峰、月山と続いた。

花巻から登山口までバスは一日三便だった。しかも 2 回乗り換えである。この辺境の地の交通事情は現在も変わっていないのではないか。バスを待つ間、駅前の土産物屋を覗いたりして時間を潰した。どの店も閑散として妙に埃ぼかった。木地山系工人小椋久太郎のこけしが溢れていた。思い起こせばこのとき購入したのが後の蒐集の初めだったかも知れない。終着は岳神社である。当時はマイカーで帰郷と言う凶柄ではなく、公共の交通機関が主流だった。隔世の感がある。時はお盆の最中で中継地ではどこも混雑した。その度にバスの客は数を増した。民族の大移動という態である。強い訛り混じりの会話は時には笑いを誘った。こんな会話を聞いた。去年の神事相撲のことなのだろう「帯をマワシにして力に泣かれた、今年はやめだ」。

岳神社に着いて人々はそれぞれ荷物を抱えて、解き放たれたように散った。心配していた宿（民宿）は直ぐに決まった。あたりは残照はあるものの夕闇が迫っていた。バスの中で台風の噂を聞いた。夕食前、下駄と提灯を借りて岳神社に向かった。宿の住人に能を見に行く事を勧められていた。神社までの長く、緩い石段は行き交う人々で賑わった。石段を下りてくる人もいた。すれ違う人々の会話は一年ぶりの再開の懐かしさと家族の消息の交歓だった。私は人々に混じって能を見ていた。気が付くと周囲は人々に埋まっている。舞台の方向に目を向けている。能はその時初めて見たのだったか時間を忘れて見入っていた。意味も分からぬまま幽玄で雅な印象を持った。

夕食後翌日の準備をしているとこの家の主人が「おばんです、よくいらしゃいました」と風呂上がりのテカテカした顔をして挨拶に見えた。日焼した、なかなかの偉丈夫である。太い声の持ち主だった。明日の予定を簡単に話した。小田越コースからと言うと台風が来ていると言った。その後八幡平に行くと言った。「今はお盆の最中で賑やかしいが、盆が過ぎると潮を引いたように静まり返って淋しくなる」といった。

おもてから花火の弾ける音と子供たちの歓声が聞こえた。それが過ぎると元の静かな宵だった。

「あれはお盆が終わったばかりの風が冷たく吹く日だった。山仕事を終えて帰ってくる途中、脇道からこのあたりでは見ない顔の男が目には涙を浮かべて下りてくるのに出会った。よくよく話を聞くと心中を殴ったが相手は死に、自分は死に切れなかったと語った。二人はバスの運転手と車掌の関係ということだった。」この話の顛末は忘れた。後年、このことを思い出すと遠野物語の挿話ではなかったのかと混乱した。主人は何事もないように明日のことを話した。そして「ハヤチネウスユキソウが見つければ良いのだが」と言った。主は終始「はやちみね」と言っていた。地元の人達はハヤチネとは言わないのだろうか。

翌朝、集落を抜けるまでの道を確認し後にした。宿の屋号は覚えていない。宿泊代は500円ほどだった。烏賊づくしの夕食だった。ここは宮古湾が近

い。

河原坊を過ぎて間もなく小田越から頂上を目指す。本格的に登山道に入る。途中誰とも出くわすこともなかった。暗雲低迷、風雲急を告げ不安が募った。森林帯を抜けると一転してガレ場になる。濡れた石は滑り歩きづらいこと夥しい。雨というほどではないが霧が全身をびしょり濡らした。見上げれば頂上あたりが煙って定かでない。予想以上に時間を費していると感じていた。

頂上が近づいたと思う頃、鉄梯子が待ち受けていた。風が強まり霧は雨に変わっている。鉄梯子の通過には恐怖を感じた。

梯子にかかる前、思いがけなく岩陰のハヤチネウスユキソウを目にした。すんでのところで見逃すところだった。花びらは雨を含んで「ぼてっ」としていた。高山植物らしからぬ色彩の乏しい、いぶし銀のようだった。今まで見たこともない花だった。大きな石で囲まれた砦のような中に社が祀られていた。そこが頂上だった。標高「1914米」。人影が動く。数人もいない。辺は薄暗く、逃げるように立ち去った。下りは更にきつかった。河原坊に向かっていた。雨はいつの間に止んでいた。振り返れば視界が開けその向こうに薄く青空さえ見えて来た。

そしてこの日から約三十年後、北上市に三年間の出向を命じられる。運命に感謝した。再び早池峰に登るチャンスを得た。今度は同行した地元の若者たちの味方を得て勇躍、納得の登山が出来た。

早池峰と遠野物語について補足が必要と思うが紙数が足りない。

早池峰(深田久弥は「山」は不要と言っている)は北上高地の主峰。岩手では岩手山に次ぐ。遠野、花巻、宮古の各市に跨る。

遠野物語には早池峰山と周辺の山がしばしば現れる。岳部落が舞台になっている場面もある。遠野盆地-遠野街道にまつわる民話、そして河童、天狗、座敷童子等妖怪に纏わる噺等119話が収められている。

「参考」

2007・10・19 “わ”の会 探訪資料「旧軍需工場ベルト地帯と今」探訪実行委員会

探訪(第6回学習会)のお知らせ

富岡の今昔を巡る 実施日：10/10(金)

定番となっています秋の探訪のご案内です。今年の探訪は「富岡の今昔を巡る」をテーマに、第1点は皆様の食への思いを満たす出発点の南部市場、第2点は周りの神社・仏閣・名所・旧跡を訪ね、近くは明治時代、遠くは江戸時代を遡る古に思いを馳せる企画としました。南部市場は来春中央市場に統合されるとの事で見学は今度が最後の機会と考え設定、午後最初の長昌寺ではご住職に法話をお願いしてあります。

す。

今回は折角の機会ですので南部市場の中の食堂の利用を計画しています。皆様は昼食の心配をしないで、ほぼ手ぶらで参加頂けます。但し実費ご負担をお願いします。案内は“わ”の会の探訪実行委員会が行います。歩く距離は約6km、1万歩で、殆どが平坦地です。足腰に優しいコースと言えると思います。奮ってご参加下さい。

『実施要領』

1. 探訪地 富岡地区：南部市場、長昌寺、慶珊寺、富岡八幡宮、日本国憲法発祥の地他

2. 日時 10月10日(金) 9時～15時 小雨決行

注1：班編成 20名毎1班とします。

注2：荒天等で中止の場合は当日朝6時45分までに、担当者が電話連絡すると共に“わ”の会ホームページに掲載します。

3. 集合時間 午前 9時00分(厳守)

4. 集合場所 南部市場管理棟入口 (シーサイドライン南部市場駅より徒歩3分)

5. 持物 名札(着用)、飲料

6. 昼食場所 南部市場内食堂

探訪申込時、昼食申込もお願いします。

原則として 下記の3種類から選んで頂きます。

① 刺身定食(1000円) ② まぐろ漬け丼(850円)

③ あなご天丼(700円)

7. 探訪経路

南部市場(競り&場内見学、昼食、※)⇒(12時出発)⇒長昌寺(ご住職法話、芋観音、直木三十五墓)⇒孫文上陸記念碑⇒慶珊寺(直木三十五文学碑、豊島明重父子供養塔、富岡空襲犠牲者供養塔、※)⇒松方正義別荘跡碑⇒富岡尋常小学校跡碑⇒海水浴発祥の地碑⇒漁業記念碑、※⇒海宝楼跡、金波楼跡⇒富岡八幡宮⇒日本国憲法起草の碑⇒西宮神社、

解散

注：※はトイレ利用可能場所

8. 申込期限 9月30日(火曜日)

学習会の概要とアンケート結果

第1回 野口英世と横浜金沢、そして私

開催日：平成26年5月10日（土）

会場：能見台地区センター 多目的室

講師：“わ”の会元代表 高橋 好一 氏

出席：97名（ビジター なし）

会員出席率：76.9%

【概要】

小学校の図書室に揃えてあった偉人伝記物シリーズに「野口英世」があったのを記憶しているが、読んだ覚えはない。が、「幼いころ囲炉裏の火で左手を火傷、不自由になったものの、貧しさの中で刻苦勉強、海外で活躍、その写真が千円札にもなったほどの偉大なる医学者」という記憶は確かにある。加えて言うと、横浜に移住した最初に住んだのが長浜で、崖下に古色蒼然とした木造建屋そして周りには桜の木、そこは横浜検疫所であり、かつて「野口英世」が勤めていたという…恥ずかしながら私の「野口英世」像はその程度であった。

ところが一昨年会報発行10周年記念号(40号)に「私の選んだ金沢の文化遺産」を募集したところ、今回の講師高橋好一氏が「野口英世ゆかりの細菌検査室」を寄稿。そこで改めて野口の勤めていた検疫所跡に「細菌検査室」が整備・保存されたことを知った次第。恥じ入るばかりだ。

高橋好一氏は“わ”の会活動の基礎を築いた三代目の元代表。野口と故郷（福島/中通り）を同じくし、また同じ理系人間（医学と電子工学）として、親近感・共感と反発から関心を持ったという。

風邪による体調不良にも拘らず、野口の生い立ちから「野口英世細菌検査室保存会」活動まで多くの資料を駆使してお話していただいた。

余りにも多くの内容のため概要とするには筆者の能力を超えるので、印象記とする。概要

についてはレジュメをお読みいただきたい。

横浜での業績の背景を推理する。

北里柴三郎の推薦で1899年、横浜へ赴任。どうやら日本の研究者としてアクが強かったらしい。体のいい厄介払いではなかったのかとは高橋氏の推測。横浜検疫所勤務が意外にも短かった（3か月程度）ようだ。その短い間に外国航路の船員からペスト菌保有者を発見、ペスト菌の上陸を未然に防いだという。

そこで私の推測。このように短い間にその成果を挙げた裏には野口の卓越した顕微鏡観察技術があったのではないかと。光学顕微鏡といえ、当時としては高額な先端機器、操作にはかなりのテクニックを要したに違いない。伝染病研究所時代、「英文取説の解説・翻訳」ができることから、顕微鏡利用チャンスを他の研究者の颯爽を買うほど多かったに違いない。それ故にこそ顕微鏡観察技術を身につけることができたのだろう。現在でも高額・精密な計測機器の分野でそのような研究者がいて、得てして優秀であり、論文の数も多い。科学機器の分野に関係したことのある筆者もかつて見聞したところだ。その顕微鏡観察技術があってこそ短期間にペスト菌保有者の発見、ペスト菌の上陸を未然に防いだと勝手に思うのだが如何？

これを北里が評価、中国へペスト対策のため国際委員会委員に抜擢された。野口の国際飛躍へのきっかけとなったのか、翌年アメリカへ。

ところがその直前渡米資金を横浜の歓楽街で友人たちと豪遊につき込んだという。これは今回得た新しい野口についての知識。

日本では成功しなかった？ —アメリカであればこそ！

野口の数多くの研究中、現代から見れば間違っていたものもあったらしい（顕微鏡能力の時代的制約に起因するようだ）が、ノーベル賞候補に3回も挙げられる程。一方、現在まで論文が57回も引用されているという。論文引用回数とその研究者を評価する尺度らしいからかなりレベルが高かったに違いない。蛇毒、梅毒等の研究でその業績は数多くかつ高いという。

さて学習会に先だって「懐かしの映画を観る会」で上映された映画「遠き落日」によるとロックフェラー研究所への入所のきっかけが面白い。所長のフレクスナー博士がかつて訪日の際、東京見学の案内役をただけの縁で訪問、採用申込、断られても執拗に願い、仕方なくフレクスナー博士が提示した皆がいやがる「蛇毒」が扱えるかの条件を受けて、入所を果たす。高橋氏の野口への共感：「目標を明確に定め…チャンス逃さず…」の躍如たるところだ。その

ロックフェラー研究所、民間のロックフェラー財団の研究所で「研究成果至上主義」、アメリカのアメリカたる研究所であるようだ。野口は「人間ダイナモ」と言われるような「尽きない耐久力と優れた技術」でフレクスナー博士の期待と信頼を勝ち得、ケチをつける？他の研究者から庇護され、論文の審査を経ずして発表の機会を得たこともあるという。能力の一本釣りというか日本では考えられない能力主義だ。加えて当時の貧しい日本の研究機関と違って研究設備と資金の豊富な研究所。学歴のない野口にとってこの上ない環境だったに違いない。

日本にいたらと翻って見ると「タテ社会」、「ムラ社会」、「学歴重視」、「年功序列」…等々そんな言葉で形容される日本にあっては大成しなかったであろう。アメリカの自由で豊かで社会が偉人野口を生んだのであろうと思う。

以上、私の今回の学習会で知り得た成果。

それにしても高橋氏のような貪欲な知識欲と知見を持った先輩を持っていることを我が“わ”の会として誇りに思う。それにしても時間が短かったこと、残念に思う。

(大門 記)

【アンケート結果】

たいへん良かった：15名 良かった：8名 普通：2 つまらなかった：0

【コメント】

- 世界にほこる野口英世の話、大変良かった(2)
- 講演時間はもう少し長くても良かった、ゆっくり喋ってもらいたかった(4)
- 映画を観てからの講演で分かり易かった(1)
- 長浜検疫所の詳細を知った(2)
- 野口英世の経歴を確認できた(1)
- 私的な見解が面白かった(1)
- 高橋氏の、現在の日本には存在しない偉人・野口英世に対する信奉度は大変なもので、良く理解できました(3)
- スライドで説明あり、大変説得力があった。良く研究されていた(4)
- 地域中心にテーマを設けたこと、資料が豊かで良かった(3)
- 野口英世についてのまとめ方が good! 保存版として使える(3)
- 私の知る偉人伝の野口から「人間野口」の真実を知ることができた(1)
- 日本の社会状況の変化が読めるものでもあった(1)
- 北里伝研の蔵書が野口経由で貸し出された後、売却事件があったり、ペスト菌発見など興味深

かった(1)

- 話が簡潔で、エピソードをからめ良かった(1)
- 野口は金沢に数か月いただけで、
地元に何の貢献もしていない。
野口、野口と騒ぐいわれは理解できない(1)
- タイトルの「そして私」は不遜である(1)



高橋 好一 氏

第2回 金沢北条氏① 実泰から実時

開催日：平成26年6月14日(土)

会場：金沢地区センター 大会議室

講師：東洋大学講師 細川 重男 氏

出席：79名(ビシター 1名)

会員出席率：68.2%

【概要】

“わ”の会の定例学習会は平成22年度から年2回分を原始時代から「時系列に沿った金沢の歴史」を学習してきた。今年と来年の4回をその核心部分といえる「金沢北条氏」に当て、今回はその第1回である。講師は“わ”の会初登場の細川重男氏、文学博士で東洋大や国学院大の講師、日本中世史の著書も多く特に吉川弘文館の「現代語訳吾妻鏡」の執筆陣の一人と伺うといわゆる学者然とした雰囲気を感じた。しかし外観は若々しく話が始めるとマイク不要の大声で具体的に話してくれた話しぶり、講談を聞いているように面白く分かりやすい。今回は金沢北条氏の初代実泰の話である。活動実績の少ない主人公ながら当時の社会常識など交え2時間飽きさせない講演であった。

「吾妻鏡」は鎌倉幕府の公的史書と推定され、鎌倉時代の研究には非常に便利な基礎資料であるが作者は不明である。出版されている①原文(和様漢文)：国史大系『吾妻鏡』(吉川弘文館)②書き下し文：『全訳吾妻鏡』(新人物往来社)③現代語訳：『現代語訳吾妻鏡』(吉川弘文館)

の3種類のうちお薦めは②の漢字仮名交じり文で、和様漢文体が作る調子が良い。

鎌倉時代末期には北条氏が1000人くらいいたが資料1枚目の北条氏の系図はそのうち役職についた人だけである。北条氏の先祖は桓武平氏であり本来の『氏』は「平」であり伊豆の北条に住み着いたので「北条」となった。2代執権義時には6人の男子がいて長男で3代執権泰時は「得宗家」、2男朝時・3男重時・4男有時・6男実泰は与えられた土地にちなみ「名越流」・「極楽寺流」・「伊具流(陸奥にある)」・「金沢流」と呼ばれた。ちなみに5男政村は「政村流」と言う。

講演途中の板書での生年は泰時 寿永2年(1183)(母：名前不明)、朝時 建久5年(1194)、重時 建久9年(1198)(共に母：比企朝宗女)、有時 正智2年(1200)(母：伊佐朝政女)、政村 元久2年(1205)、実泰 承元2年(1208)(共に母：伊賀朝光女)であり、親の関係からもプリントの系図の政村と有時の順が逆と思われる。こうして北条実泰が金沢北条氏の初代となっている。

この後は吾妻鏡の実泰に関する記述をすべて抜粋した資料をたどる。

金沢実泰は承元2年(1208)に生まれ弘長3年(1263)9月26日に没している。昔の年齢は数え年(生まれると1歳、正月が来ると1つ加える)なので誕生日は問題にならず、誕生日の不明な者が多い。建保2年(1214)、実泰は7歳で元服する。御所の将軍実朝の面前で行い烏帽子親は前駿河守惟義朝臣という清和源氏に繋がる有力者で大きな後ろ盾を得たことになる。名前は「相模五郎実義」、上の「相模五郎」を仮名(ケミヨ)と言い、父親義時の官職+何番目の子(生母の関係からか本当は6男ながら5男扱いとなっている)。下の「実義」を実名(ツミヨ)又は諱(ミカ)と言い、実朝の「実」と義時の「義」をもらった。実泰の生母は伊賀朝光女で特に義時のお気に入りだったこともあり実泰も父・義時に可愛がられたようだ。その後も同じ生母であった政村と共に順調に出世していった。

吾妻鏡には承久3年(1221)14歳では長兄泰時の近習として京に進発、16歳では将軍実朝亡き後の将軍候補となった三寅丸(4代将軍藤原頼経(注1)の近習番になる、17歳で父義時が62歳で没した時の葬送、18歳での除服の祓い(喪明けの儀)の記述までは「陸奥五郎(実義)」を用い、安貞2年(1228)21歳の正月の垢飯(オガ)の行事の記述で初めて「陸奥五郎実泰」が出てくる。

実泰17歳の貞応3年(1224)に伊賀氏の変(注2)が起き、政村と実泰は微妙な立場となっていたが、3代執権となった泰時は幕府体制の基盤を固める方向で寛大な措置を取り、末弟「五郎実義」に自分の1字「泰」を与え「五郎実泰」にしたと思われる。その後23歳まで、正月の垢飯(オガ)での役割や将軍の外出時(笠懸や永福寺の花見など)の側近として重用されている。さらに23歳3月には六波羅探題に就任する3男重時に替わり小侍所別当に就任する。将軍に近侍して宿直や供奉を管理し警備を統括する役所の長官で、幕府の最高幹部への登竜門である。まだ無冠ではあるが順調に出世している。

天福1年(1233)26歳の時には執権泰時の屋敷で10歳の息子が元服し、予定にはなかったが泰時が烏帽子親となり「太郎実時」と名乗った。

文暦1年(1234)27歳の時、実泰は病気で小侍所別当を辞した。息子実時はまだ年少でこの職は重過ぎるという意見もあったが執権泰時は援助の要ありとして、実時に小侍所別当を継がせた。

その後29年間吾妻鏡には実泰に関する記述は無く、弘長3年(1263)9月26日実泰は56歳で亡くなり、『入道陸奥五郎平実泰(法名・浄仙)卒す』(注3)が最後の記述となっている。

最後に講師は「病気で別当を辞したと書いてあるが頭の病気(能力不足)かも知れない」と話されたが、筆者の感想としては実泰の兄は全員執権や連署、評定衆になっているし、息子実時などの子孫を見ても能力のない人とは見えず本当に身体の病気だったのだらうと思いたい。

(注1) 4代将軍

建保7年(1219)、3代将軍実朝が暗殺された後、4代将軍を皇族から迎えようと後鳥羽上皇に依頼するが断られ、頼朝の姉の曾孫にあたる九条家の三寅丸(藤原頼経の幼名、当時2歳)を将軍候補として鎌倉に迎えた。4代将軍となったのは実朝死後7年、嘉禄2年(1226)である。

(注2) 伊賀氏の変

貞応3年(1224)6月～閏7月に起きた鎌倉幕府の政変。2代執権北条義時死去に伴い、義時の後妻伊賀の方(政村・実泰の母)とその兄伊賀光宗が政村を3代執権に就任させようと画策し失敗した事件。3代執権は北条政子が三浦氏等にも働きかけ長男泰時が就任した。なお政村は7代執権となっている。

(注3) 入道陸奥五郎平実泰(法名・浄仙)

「入道」は僧の事、「陸奥五郎」は仮名(ケミヨ)、「平」は氏、「実泰」は実名(ツミヨ)で、僧としての法名が「浄仙」である。

(相川 記)

【アンケート結果】

たいへん良かった：30名 良かった：9名 普通：0 つまらなかった：0

【コメント】

- ・家系図から読み解く面白さと、実泰の存在など十分理解できた(7)
- ・トークも上手で、説明が面白く解かりやすかった(17)
- ・地元の金沢氏の始まりが解かり良かった。我々が待っていた一番身近なテーマ(3)
- ・鎌倉幕府と金沢北条氏の関係が時系列的によくわかった(2)
- ・北条義時の子の兄弟たちのストーリーが興味深かった(1)
- ・若い講師の話で、語り口や表現力など、新鮮味のある講義であった(1)
- ・ユーモアがあり「吾妻鏡」に興味を湧いた(2)
- ・烏帽子の由来などが面白かった(1)
- ・元気な声で熱意を持っての講義が良い(1)
- ・北条義時は朝廷無視、深謀遠慮ですべて義時の謀事(1)
- ・あきさせない話しぶりで、
たいくつな実泰の話をお聞かせしてくれた(1)
- ・板書は大学生を教えているので書いて忙しげに感じた(1)
- ・名前がたくさん出て、その場では分かったつもりだが、
後で思い返すと混乱してしまった(1)
- ・吾妻鏡からの抜粋で、
実泰が泰時にかわいがられていたことがわかった(1)
- ・はじめは進め方が遅すぎると思ったが、
後半はよくまとめられた(1)
- ・専門的に広範囲に及び難解なところもあった(1)



細川 重男 氏

第3回 金沢北条氏②実時から顕時

開催日：平成26年7月12日(土)

会場：能見台地区センター 多目的室

講師：東洋大学講師 細川重男氏

出席：82名(ピジターなし)

会員出席率：65.0%

【概要】

講師細川重男氏による「金沢北条氏」は先月の「実泰から実時」に続き今月は「実時から顕時」について解説が行われました。

実時の父実泰は3代執権泰時の末弟であったが、としが25歳も違い泰時の子供待遇として大事に処遇されていた。実泰の子供実時も得宗家から厚い信頼を受け重要な地位を占めていた。こうした事実を『吾妻鏡』や系図を使い解り易く解説して頂いた。

「金沢実時」の官職歴に関しての概要は以下の通り。

- ・父：金沢実泰、母：北条時政と親しい天野政景の女

- ・11歳で“小侍所別当”に任じられる。
- ・15歳で官職である「掃部助」に任じられる。
- ・29歳で「引付衆」、30歳で「評定衆」
- ・32歳で越後守を叙爵(二從五位下)⇒大抜擢であった。
- ・42歳で從五位上。
- ・50歳で引付衆最高位の「一番引付頭人」(「連署」の一步手前)
- ・53歳六浦別業(別荘)で没。

このことから若年の内から朝廷からの官位や幕府内での位も高いくらいが与えられ北条家の中でも大切にされていたことが解る。

又『吾妻鏡』の寄合関係史料から北条得宗家主催の秘密会議である〔寄合〕には北条氏一門からは5代執権北条時頼、北条政村と金沢実時がメンバーとなっており重要な構成員となっていたことが解る。また6代執権時宗の時も同様にその会議のメンバーとして名を連ねている。

実時の晩年、跡目争いがあったことが「日蓮遺文」と「小田時知書上」からうかがい知れる。前田本「平氏系図」によると、実時には長男 実村（太郎）、次男 篤時（次郎入道）、三男 顕時の子供がいた。

文永10年5月27日、連署であった北条政村が69歳で没した。この後まもなく実村と顕時との間で異母兄弟間の嫡庶争いがあった。文永10年(1273)11月3日付「日蓮遺文」(9月9日付の富木常任からの手紙に対する

日蓮からの返事)の中に『越州嫡男と妻が謀反により異島に流罪』のことがしたためられている。又、常陸の大豪族である小田時知から金沢実時の執事である平岡左衛門尉に宛てた文永10年9月13日付「小田時知書状」には『太郎殿御事承候、・・・』(実村殿の配流事件のこと承っています、・・・)云々とある。これらのことから長男実村とその母は跡目争いに負け遠く北海道に流罪となり、顕時が金沢北条家を継ぐことになった。このことは、母が執権北条政村の娘であったことが大きな理由であったと考えられる。

金沢顕時の話まで入る時間が不足「これは又来年!」という言葉であつという間の2時間の興味深い講義が終了した。

(吉田 寿紀 記)

【アンケート結果】

たいへん良かった：32名 良かった：2名 普通：0 つまらなかった：0

【コメント】

- ・鎌倉幕府における実時、顕時の役割をわかりやすく説明していただいた(2)
- ・大変楽しい講座でした(4)
- ・システマチックな講話でわかりやすかった(4)
- ・朝廷の身分、幕府の身分など、実時のケースについてわかりやすく説明していただいた(2)
- ・良く通る大きな声でよく聞き取れた(4)
- ・前回と同じ熱烈講義で、細部にわたり興味深く拝聴した(1)
- ・いつもながらユーモアがあり話が上手いので理解が深まった(3)
- ・古文書に沿って興味深いお話だった(1)
- ・歴史上の人物が生き生きと浮かび上がってくる説明だった(1)
- ・北条系図がわかりやすかった(1)
- ・一般に知られていない事柄などもふれていただき面白かった(1)
- ・日蓮上人の話はミステリーだ(1)
- ・来年もよろしくお願ひします(1)
- ・眠くならない語り口に、しっかり伝えたいポイントをわかりやすく話された(1)
- ・実村の話は初耳でよかった(1)
- ・復習になってよかった(1)



細川 重男 氏

「懐かしの映画」鑑賞録 No.15

「懐かしの映画を観る会」代表 佐藤 晃

平成 26 年度第 1 回 鑑賞会

〈鑑賞日：2014.4.14〉

黄昏 On Golden Pond

製作：1981 年 アメリカ映画 上映時間：110 分
監督：マーク・ライデル 原作：アーネスト・トンプソン
出演：キャサリン・ヘプバーン、ヘンリー・フォンダ、ジェーン・フォンダ
その他：アカデミー主演男優賞、主演女優賞、脚色賞受賞

（あらすじ）

アメリカ、ニューイングランドの静かな湖畔の別荘に、引退した大学教授のノーマン（H・フォンダ）と妻のエセル（K・ヘップバーン）が夏を過ごすためにやって来た。もうすぐ 80 歳を迎えるノーマンは心臓が悪く、物忘れもひどくなっており、エセルは優しくノーマンを支えている。ある日、一人娘のチェルシー（J・フォンダ）から手紙が届く。チェルシーは離婚経験があるが、今は歯医者の子のビルと交際しており、ビルの連れ子のビリーと 3 人で来るというのである。チェルシーはノーマンとは心から接することが出来ず、話がかみ合わないことが多

い。3 人が来ても、話はうち解けず気まずい雰囲気である。翌日、チェルシーはビリーを両親に預けて、ビルとヨーロッパに旅立った。

一人残されたビリーは次第にノーマンになついていき、二人はボートでウォルターと呼ばれる魚を探しに岩だらけの入江に釣りに出かけた。夕暮れになっても帰らない二人を探しに入江に出かけたエセルは、ボートが座礁して、岩にかじりついて助けを待っている二人を見つけて助け出す。チェルシーはブリュッセルでビルと結婚式をあげて帰って来た……。

（解説）

父親と娘との確執と和解を描いた劇作家アーネスト・トンプソンの同名の舞台劇の脚本を目にしたジェーン・フォンダが、1981 年に自ら大金を投じて企画した映画が『黄昏』である。父親のヘンリー・フォンダの浮気を苦にして母

親が自殺したのはジェーン 12 歳のときである。3 カ月後、ヘンリーは再婚したので、ジェーンは父親に反発し、父親と不和となっていたのだが、長い時間を経て、老境に入った父親と親密

になりたいと共演できる脚本を探している時に
に出逢ったのがこの脚本だった。

老夫婦を演じるのはヘンリー・フォンダとキャサリン・ヘップバーン。ハリウッドの誇る二大スターの軽妙な駆け引きや、ユーモア溢れる絶妙な演技は、人生のたそがれを美しく飾る。父親と娘との確執を溶かすのは娘のチェルシーの連れてきた婚約者の息子ピリーである。80歳のノーマンと13歳の少年の間に友情が生まれ、素直な人間的な感情はノーマンの魂を生き返らせ、娘との和解を導く。

娘ジェーンの企画で父親ヘンリーは半世紀に及ぶ俳優人生のすべて燃焼し、オスカーに無縁だったヘンリーに初のアカデミー主演男優賞をもたらした。また、相手のキャサリン・ヘップバーンは史上初となる4度目の主演女優賞を獲た。撮影時、ヘンリー・フォンダ77歳、ヘップバーンは73歳であった。アカデミー賞受賞式には心臓病が悪化したためヘンリーは出席できず欠席したが、生涯唯一のアカデミー主演男優賞をジェーンから受け取り、5カ月後にこの世を去ったのである。

平成 26 年度第 2 回 鑑賞会

〈鑑賞日：2014.4.28〉

遠き落日

製作：1992年 松竹、テレビ朝日、東急グループ 上映時間：110分

監督：神山征二郎

原作：渡辺淳一「遠き落日」、新藤兼人「ノグチの母 野口英世物語」

出演：三田佳子、三上博史、仲代達矢、牧瀬里穂、田村高広

(あらすじ)

磐梯山と猪苗代湖に挟まれた福島県扇島村(現、猪苗代町)に明治9年(1876年)に野口清作(成人後は三上博史)は生まれた。母シカ(三田佳子)は、酒ばかり飲んで働こうともしない夫に代わって過酷な農作業をひとりで引き受け、一家の生計を支えている。清作1歳半の4月、シカは自分の不注意から清作の左手に大やけどを負わせてしまう。やがて、シカは清作が貧しさや左手の不自由さにいじけないように小学校に上げることにした。清作は、母親の必死で働く姿を励みに勉強にいそしんだ。その甲斐あって清作の成績は見る間に上がり、小林先生(仲代達矢)の手によって高等小学校への道も開けた。

やがて、小林先生をはじめ、みんなの善意で手術の費用が集められ、渡部医師による手術も

成功し、清作は左手を動かすことが出来るようになった。これをきっかけに清作は医学の道を志すようになり、小林先生の勧めで母のもとを離れ、渡部医師の門下生として勉強することになった。上京の後、清作は“英世”と改名し、次々と難関を突破、晴れて医師の資格を得た。だが、不自由な左手や学歴の差のために、研究や診察を思うようにさせてくれない教授たちの態度に失望し、英世は酒や女におぼれた日々を送っていた。見かねて上京したシカに英世は自分の不運を嘆くが、シカも英世にやけどを負わせて以来、逃れられない苦しみを背負っていることを告げる。やがて、日本で医学を学ぶことに限界を感じた英世はアメリカに渡り、当時最も注目されていた細菌学に取り組むことになった……。

(解説)

渡辺淳一の野口英世の伝記小説『遠き落日』と新藤兼人著の『ノグチの母 野口英世物語』を合わせて新藤兼人が脚色し、『ハチ公物語』(1987年)の神山征二郎が監督して1992年に作った映画である。

作者の渡辺淳一は、札幌医科大学整形外科講師であっただけに、医学の知識は豊富で、米国にまで足を運んで取材し、綿密な調査をもとにこの伝記小説を著した。この映画は、野口英世の生涯をクロニクルに追っている。野口英世の

功績は、後半、新聞記事のインサートで手際よくまとめられているが、新藤兼人の脚本らしく、英世を英雄視することなく、英世の借金癖や浪費癖などのネガティブな面や、女性に対する一方的な態度など否定的な側面も描写され、人間野口を感じさせる映画となった。三田佳子は、自分の不注意で大やけどを負わせた自責の念に苦しみながら息子を支援続ける母親シカを渾身の力で演じ、この年の日本アカデミー賞の主演女優賞を得ている。

平成 26 年度第 3 回 鑑賞会

〈鑑賞日：2014.5.12〉

外人部隊 Le Grand Jeu

製作：1933年 フランス 上映時間：120分
監督：ジャック・フェーデ
脚本：ジャック・フェーデ、シャルル・スパーク
出演：ピエール・リシャル・ウイラム、マリー・ベル（二役）
フランソワーズ・ロゼー、シャルル・ヴァネル

(あらすじ)

ピエール（P・リシャル・ウイラム）は愛人フローランス（マリー・ベル二役）のために会社の金を使い込み発覚して、ひとり国を去って、モロッコの外人部隊に身を投じた。行軍と、戦い、そして病気と地獄の生活を送るが、慰めは酒と女だけであった。ピエールの頭には常にフローランスの面影が残り、忘れようとしても、忘れられないのである。

ピエールに親友が出来た。ロシアから亡命してきたニコラである。ピエールとニコラの下宿のマダムブランシュ（F・ロゼー）は、世の中の酸いも甘いも知り尽くした女で、なにかと

二人の面倒を見てくれている。亭主のクレマン（S・ヴァネル）は怠惰で、宿の女たちに色目を使っている男である。ある夜、ピエールは酒場でフローランスに似た女イルマ（マリー・ベル二役）と出会う。イルマはフローランスの金髪の代わりに黒髪であり、しわがれた低い声を持ち、頭に銃弾の傷のある粗野な女だった。だが、純真で、ピエールを愛し、心底ピエールに尽くした。ピエールはブランシュから金を借りて酒場からイルマを引き取り一緒に住み始めた……。

(解説)

原題は「大きな賭け」である。1930年代のフランス映画の巨匠ジャック・フェードが脚本家シャルル・スパークと組んで作った『ミモザ館』(1935年)『女だけの都』(1935年)の三部作の一つで、3作ともフランソワーズ・ロゼ(フェード夫人)を配し、何れも世界映画史上に残る名作と評価が高い。1930年代のフランス映画は、主人公のささやかな希望が、無常にも打ち崩されるといった映画が多い。隣国ドイツのナチズムの脅威にさらされていた当時の社会情勢の反映か。J・デュヴィヴィエの『望郷』、『舞踏会の手帖』、M・カルネの『霧の波止場』、J・ルノアール『大いなる幻影』など挙げられるが、この『外人部隊』の主人公のピエールの虚無的な生き方はその先鞭をなすも

のである。アフリカの砂漠の街「アルジェ」を背景に、そこに生きる外人部隊の兵士たちは人生につまづき、絶望している。伯父の遺産が入り、女と再出発しようとしたピエールは、昔の女と出会い、よりを戻そうとするが相手の冷たい態度に夢が去り、すべてが疎ましくなってイルマに金を与え、パリに行かせ、自分は再度外人部隊に志願する。ラストシーンで写される2枚の死のカードはこれからのピエールの行く先を暗示しているが、ピエールは去っていく。こうした風潮をさして「フランス映画のペシミズム」と多くの評論家は評したが、これらの映画の多くが1930年代のフランス映画の黄金時代を築いたことも、また、事実である。

「浮雲俳句会」抄録 No.26

「浮雲俳句会」代表 北野 清市

《 俳句の表現技法 》(その1)

俳句の表現技法とは、俳句を強調したり、俳句の感動を高めたり、俳句に余韻を残したり、あるいは俳句の調子を整えたりするための、特別な文章表現の技(わざ)・工夫のことです。

この技法は、比喩法・体言止め・省略法それに擬音・擬態語法の4つに分類できます。

1 比喩法

比喩法は、何かに例えることで、類似した事例を借りて表現する方法です。一般的に、次のように区分されます。

- ① 直喩法…「…のごとし」「…のようだ」などの言葉を直接用い、何を、何に例えるかを、明らかにします。

去年今年貫く棒の如きもの 虚子

摩天楼より新緑がパセリほど 狩行

- ② 隠喩法…遠い関係にあるものを、相即の関係にしたものです。

霜つよし蓮華とひらくハヶ嶽 普羅

からたちの冬天蒼く亀裂せり 赤黄男

③ 擬人法…人間以外のものを、人間のように、取扱って表現する方法です。

年を以て巨人としたり歩み去る 虚子

扇風機大きな翼やすめたり 誓子

2 体言止め

俳句は、形容詞（美しい・悲しい）や副詞（すこし・きっと）などの言葉より、名詞のほうが似合うものです。それは、俳句が、5・7・5と世界最短の17音の詩ですから、余分な飾りや修飾する言葉は、入る余地がないからです。

終わりよければ、すべてよしと云いますが、何よりも「体言（名詞）止め」の形にすることが肝要です。下5の最後を体言（名詞）でキッチリ止めると、句が安定し、印象を強め、詩的な余情や余韻をもたらします。

鷹一つ見付けてうれし伊良湖崎 芭蕉

牡丹散て打ちかさなりぬ二三片 蕪村

吊革の一つにふたり卒業子 一清

春落暉サイドミラーに嵌めて旅 一清

（以下「その2」に続く）

《79回例会 H26年4月27日》

〔 秀作 〕

天賞

船浮かし東京湾に蜃気楼 国眼

大自然に対する驚嘆の句。蜃気楼は、大気中で光が、異常に屈折するために起こる現象。わが国では、富山湾で春先に起こる蜃気楼が有名である。大気中の上層と下層の温度差が大きいと、大気層の密度が変わり、光線は直進せず屈折し、遠方のものが、砂漠や草原では近くに見えるように見えたり、海上では空中に浮いて見えたりする。

掲句では、＜東京湾＞で＜蜃気楼＞現象があり、船が浮いて見えたというのである。

地賞

流れたきかたちに流れ春の水 祥代

大自然の法則を詠んだ佳句。水は物理的法則に従って、低地に向かって流れる。作者は＜春の水＞でそれを発見したのだ。

＜春の水＞は、冬場に水が涸れているから、流れたままの形で流れるさまを発見したのである。

これは、作者の自然に親しむ心が、大自然の法則を見事にキャッチしたのである。

人賞

携帯の着信音や入社式 一馬

現代を広く詠んだ句。今や携帯電話は、世界的な生活必需品。昨年の世界の販売台数は、前年比3.5%増の18億700万台にのぼっている。

わが国においても、携帯電話は単に「携帯：ケイタイ」と呼ばれ、加入者数も1億人に達して、一段と多機能化している。このためケイタイは、社会生活のなかにおいて、欠くべからざるものとなっている。特に若者の日常生活には、切っても切れないものになっている。

この〈携帯の着信音〉が、〈入社式〉の最
中に入り、着信者は慌てて、電源をオフにした
のだ。

〔 特選 〕

遠霞出船入船東京湾	重九	朧夜や触れあひ軋む舳い舟	一悦
のどけしや釣糸たらし東京湾	勝美	残酷の四月を載せて手術台	十九
しんがりを蜂の旋回ついで来し	勇平	黒塀に味噌の香りや月朧	とも女

《80回例会 H26年5月18日》

〔 秀作 〕

天賞

柿の木に蛇ながながと衣脱げり 岩介

蛇の脱皮の様子を詠った写生句。蛇は、脱皮することによって成長。一年に5～6回繰り返して、大きくなってゆく。

皮の下に新しい表皮が出来ると、古い表皮は浮いて白くなる。それを蛇は、木の枝に顎のところから引っ掛けて進み、裏返して、脱いでゆく。それが、〈柿の木〉に残っていた。

〔 蛇の衣いま脱ぎ捨てし温もりよ 卓三 〕

〔 蛇の衣ぶらりと敗北感がくる 秋虹 〕

脱皮は、蛇の成長するために、必要な過程であるが、やや不気味でもある。それだけにインパクトも強いといえよう。

地賞

箏篋に雅楽の舞や牡丹園 国眼

美の極限を謳歌した力作。箏篋（ひちりき）は、わが国には奈良時代中国から伝わった。音は鋭く、悲愁を帯びる。雅楽は、平安時代に宮廷を中心とした貴族社会で行われた音楽。

〈牡丹園〉で〈箏篋〉の音の中、〈雅楽の舞〉を披露しているのである。しかも、視=雅楽

の舞、聴=箏篋の音、覚=牡丹の触角のいずれも、最高の美を表現している。

人賞

夕焼けの瀬戸内海に橋の列 勇平

瀬戸内海に架かる橋を詠んだ好吟。瀬戸内海は、日本唯一、かつ、最大の内海。本州・四国・九州の11府県にまたがり、東西450キロ、南北平均16キロ、水深20～40メートル。東の紀淡・鳴門、西の関門・豊予の4海峡によって、外海に通じている。また海上には、淡路、小豆島など300余の島々が、散在する多島海である。

最近では、本土と四国を結ぶ本州四国連絡橋が架かり、景観が一変した。

因みに、これら連絡橋は、①神戸・鳴門ルート②児島・坂出ルート（瀬戸大橋）③尾道・今治ルート（しまなみ海道）である。

掲句は、児島・坂出ルート（瀬戸大橋）を詠んだものであろう。瀬戸大橋は、6つの橋からなり、全長12キロで、塩飽諸島の5つの島に架かっている。大自然に対する人工の橋の見事な景が素晴らしい。

〔 特選 〕

渦潮の連れきし夏や瀬戸内海	祥代	蛇の水脈静けき沼の風さわぐ	重九
退く子身構へる子や檻の蛇	とも女	山歩き首もたげたる青大将	一悦

八幡の杜噴き上げて楠若葉	十九	高らかな老鸞の声場を制す	二祥
車椅子ゆつくりめぐる牡丹寺	好童	妃に翳す傘の如くに牡丹園	一馬

《16回金沢区民俳句大会への参加 H26年6月1日》

金沢区民俳句大会は、回を重ねて定着し、参加者も40人前後が続いている。このような中、一昨年の年次大会から、出句する当季雑詠2句のうち、1句は、出来る限り、ご当地俳句をお願いしてきた。というのも、俳句を志す者にとって、当該地域の花鳥諷詠を詠った俳句を作ること、最大の目標であり、かつ、最高の喜びだからです。

この点、今回の年次大会では、かなり、ご当地俳句の出句数が増え、しかも、佳吟が増加している。わけても、今回は、期せずして、特選及び天地人賞8句、総てが、ご当地俳句であった。

このような中において、特筆すべきは、わが浮雲俳句会のメンバーの活躍であって、天地人賞総てを、獲得したのである。

〔 秀作 〕

天賞

滴りは時を刻むや摩崖仏 二祥

仏像に関するご当地俳句。摩崖仏は、自然の崖に彫刻した仏像。区内には、2仏を見ることが出来る。①は、白山社西側の白山道の崖の中腹にある薬師如来である。②は、朝比奈の通称「鼻欠地蔵」あるいは武蔵と相模の境界にあるため、「界（さかい）の地蔵」と呼ばれるものである。

2仏とも風化が進んでいる。しかし、これは、〈滴りは時を刻む〉のように、長い年月をかけた結果である。

地賞

釜利谷の闇夜に白く山法師 一幸

夜のご当地俳句。釜利谷地区は、金沢区の5つの地区の西側にある。面積は広い方で、動物園や植物園からなる金沢自然公園などもある。

このような釜利谷地区の中において、掲句は山側サイドの釜利谷台地の夜景を、詠ったものであろう。

〈山法師〉は、落葉高木で山地に自生し、5～6月ごろ白色の頭状花を咲かせる。この白い頭状花は、規則正しく、沢山列をなして咲くので、遠目に見ると、枝の上全体が、白く見える。

特に、夜はその白さが、花明かりとなって、一段と素敵である。

人賞

不動池しじま切り裂く夏燕 とも女

静と動を対比したご当地俳句。不動池は、能見台5丁目の関ヶ谷不動尊の崖下の池。今どき、三方が30メートルほどの崖に囲まれた緑陰。池に飛び交う虫を狙って、夏燕も飛来する。

〔 特選 〕

野島より安房へと走る青嵐 十九

その上の久良岐郡や深緑 一馬

万緑や撞かすの鐘の称名寺 (他の結社)

風みどり馬子唄しみる塩の道 (他の結社)

平瀧を縦横無尽夏燕 (〃)

「ふれあいの道歩こう会」定例会概要 NO.6

「ふれあいの道歩こう会」代表 小俣 悦男

今回は6月5日(予備日6日)に予定していた独自コース16番、長野県富士見町の「入笠山と入笠湿原の花々」は例年より早く5日が丁度梅雨入りとなり、両日とも雨天であったため中止とした。また、8月は“わ”の会の学習会が8月2日になったため会報の配布日も早まり、原稿の締切りは7月15日となった。7月の定例会は7月17日、18日であることから今回は間に合わない、よって実施概要No.6の掲載は5月定例会1回だけとなった。

独自コース15番「新緑の奥多摩 高水三山縦走」

実施日：平成26年5月16日(金) 晴れ 参加者9名 距離：約12km 標高差：約400m

所在地：東京都青梅市

往 路：東神奈川駅横浜線八王子行き6:54分発、八王子にて八高線、拝島で青梅線、更に青梅で青梅線奥多摩行きに乗り継ぎ9:08 軍畑駅に到着

コースタイム：軍畑駅前にて柔軟体操の後9:25 スタート→高源寺9:50 着→常福院 11:15 着～(昼食)11:50 発→高水山山頂 11:55 着～12:05 発→岩茸石山山頂 12:25 着(果物タイム)～12:40 発→惣岳山山頂 13:15 着～(コーヒータイム)13:35 発→沢井分岐 14:15 着→青渭神社 14:30 着(参拝)→多摩川沿いを散策→澤ノ井園 15:05 着

帰 路：沢井駅 17:07 発で往路を逆にたどって19:27 横浜駅に帰着

コース解説：低いながらも3つの峰(高水山759m、岩茸石山793m、惣岳山(756m))を縦走するコース。急登やきつい下り、岩場など低山にしては変化に富んでいる。高水山にある**常福院の本堂は国の重要文化財**。また、コース沿いの新緑の木立、数々の春の花々が心を癒してくれる。特に新緑がきれいな多摩川渓谷沿いの自然・景観は素晴らしいものがあつた。仕上げは日本酒醸造元小澤酒造の澤乃井園で反省会。澤乃井園は多摩川景観を活かし情緒たっぷりのロケーション。なお、下の奥多摩の山並みの写真は俳句のような情景ながらカラーでないで緑の濃淡が分かり難いのが残念。是非、“わ”の会のホームページをご覧ください。

山並みや濃淡織りなし青葉照る



高水山(759m)にある常福院。本堂が重要文化財



奥多摩の山並み

＜一口メモ＞ 奥多摩、奥秩父を貫く深い山奥のツキノワグマの生息地域に近いので、イノシシと併せ警戒が必要である。青梅市商工観光課の話によると、南関東地域のクマは、温暖さとエサ確保の容易さから、冬眠しない場合もあるようだ。よって、冬はクマが出ないという固定観念は捨てた方がよいとのことでした。

掲載記事並びにコースに関わるお問い合わせは下記にお願い致します。

小俣 悦男 ○メールアドレス：e-omata@mx2ttcn.ne.jp ○電話番号：045-782-8147
定例会要に載っている写真は全て“わ”の会のHP「ふれあいの道独自コース」にカラーで写真が載っています。

「古文書を読む会」からのたより（4）

「古文書を読む会」代表 真田 雅行

宝永4年(1707)の富士山大噴火

江戸時代における自然の災害は数多いが、元禄（1688～1703）から宝永（1704～1710）にかけては不思議と天災地変が絶え間なくおこり、元禄大地震（元禄16年（1703）11月22日、小田原地震ともいう。会報「かねざわ」48号に掲載）の翌年幕府は宝永と改元したが天災地変は収まらなかった。

噴火による影響は噴火口の位置や風の方向等により異なる。

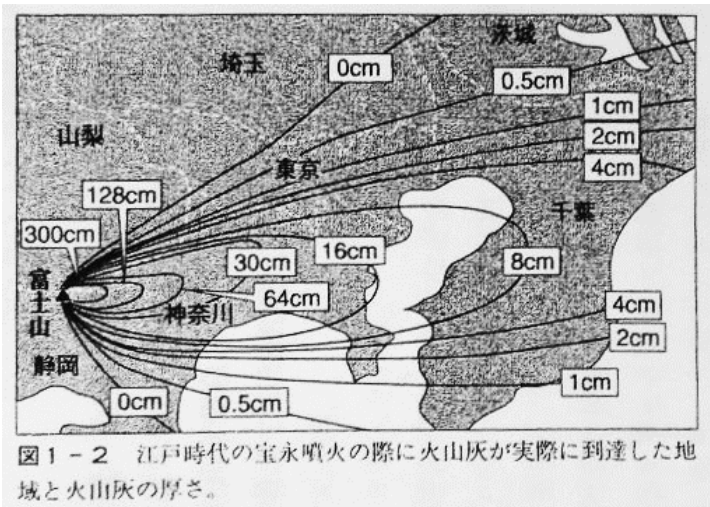
富士山の西側と南側は噴出物の降下が少なく直接被害は地震動によるもののみであり、北側（富士吉田方面）は雷の如き鳴動と震動がしきりに続き、南方に空から釣鐘ほどの大きさの光るものが降ってきたのが見られたという。

一方噴出物の直撃をくらった須走や御殿場など富士山の東側が最も広範囲で周辺の農村に深刻な被害を与えた。以下はその東側についての状況である。

宝永元年（1704）11月23日午前8時頃大地震と共に始まった富士山南東6合目付近の山腹からの噴火は最初、轟音と大きな大地変動と噴煙からなる黒い雲と雷だけだったが、10時頃から石砂が降り出し、日の暮れる午後6時には煙はみな炎（火煙）にみえた。草木は焦げ、牛馬は倒れ、飛ぶ鳥は石に打たれて林に死ぬ有様だったという。東側に出来た噴火口（宝永山という）に最も近い須走（すばしり）では火山弾・火山灰など噴出物の直撃で家数75軒全部が炎上ないし倒壊した。この大噴火により駿河・相模・武蔵の広い範囲にわたって火山灰が12月8日まで16日間も降り、大気を汚染し、積もった火山灰が田畑などを埋め、麦作は全滅した。堆積した降砂のため川床が上がった酒匂川が大氾濫をおこした。

6代将軍家宣、7代家継治下の幕政を主導した新井白石は自伝『折たく柴の記』の中で、噴火当時の江戸の様子を次のように伝えている。

「23日の午後1時頃に江戸城出勤を命ぜられていたところ、12時過ぎ雷の音を聞き、自宅を出る頃には雪が降っているような有様であった。江戸からみて南西の方向の空は黒い雲が立ちのぼっていて、しきりに稲光がしてい



る。城に着く頃には白い灰が地面を埋め、草木も真白にみえた。午後3時頃將軍の御前に参ったところ、空はなはだ暗くて蠟燭をともして講に列席した。午後8時頃灰は止んだが地鳴りと地震が絶え間なく続いた。2日後の25日に再び空が暗くなって雷のような音が鳴り、夜しきりに灰が降った。この日はじめてこの異変が富士の噴火によるものであるということをお口伝てに耳にした。その日以後は黒い灰が止むことなく降り続いた。」

かかる状況下幕府は灰を取り除くための経費として全国の幕府領・大名領に対し一律高百石につき金二両の割合で灰金を賦課、総額は49万両に及んだが、その内6万両を実際に使用しただけで、残りは何に使われたか不明である。

更に幕府は小田原藩領の197カ村を一時収公し、復興するまで別の地域に移した。

当会で学習した下記古文書は富士山噴火による小田原藩領内被災並びに救済記録の一部

である。

(山北町鈴木家文書)



読み下し文

1. 小田原御城主 大久保加賀守様御時 宝永四丁亥十一月廿三日四ツ時より震動ひびきすさまじく、地をくつがえす程雷の鳴ること夥しく、日は闇夜の星の光のごとく、人は申すに及ばず、牛馬諸鳥生類の分たちまち一命すたるかと肝を消し候処に、駿州富士山焼け出し、石の降り積る事地より六七寸、それより砂降る事同十二月八日の朝迄十六日の内昼夜共に降り積り、初降りの石共に砂の深さ富士山麓は壺丈四五尺より三四尺迄、当郡中山家通りは三四尺より二尺七八寸迄、当村の砂深さ一尺九寸より二尺一二寸まで降り積り、田畑野山一面の砂場に罷り成り、迷惑仕り候に付、河村三ヶ村にて一通の御注進状認め、地方御代官様に差上げ申し候文言：

恐れ乍ら書付を以て願い奉り候御事

去る廿三日よりの震動にて砂石大分降り積り、田畑に仕付け申し候麦作並びに諸種物捨り申し候、もつともこの間村々少々づつも種掃き仕り候らえ共、山附の村にて地高より段々崩落、殊々に今砂石降り止み申さず候故、御百姓共難儀仕り罷り有り候、只今の様子にては田畑開発自力に及び難く存じ奉り候、且又当御物成(年貢)年々納め様の分ヶ河村御上米の儀五六分程は御米にて御蔵入仕り、残り米並びに畑方金の儀、奥山家・中山家に穀物等遣わし、諸色(しょしき、いろいろの品物)山荷物買出し商売、殊に駄賃等を取り、又は萱・薪等商売仕り、御年貢上納並びに渡世(生業)相続申す所に、砂石にて山家筋通路相留まり、当分飢命に及び申し候者共段々御座候、.....

パソコン何でも相談室【1】

「パソコンを使いこなす会」代表 林 洋

分科会「パソコンを使いこなす会」を立ち上げて6年が経過しました。この間、分科会に加え区民活動センターでのパソコン相談室「サポート」、並木コミュニティハウスでの「パソコン何でも相談」等でパソコンの使い方について次の様な多岐にわたる相談を受けてきました。

- ▶ 立ち上げ時に変な広告が現れる
- ▶ 友人からのメールが届いていない
- ▶ パソコンの動きが遅い
- ▶ パソコンの立ち上げに時間がかかる
- ▶ Windows8 (8.1) が使いづらい
- ▶ メール添付文書が開けない
- ▶ エクセルの表示が乱れる
- ▶ インターネット検索の技術
- ▶ 保存したファイルの整理
- ▶ デジカメ写真のパソコンへの取り込み
- ▶ 名刺・ラベルの差し込み印刷
- ▶ 年賀状・暑中見舞いの作成 等

この中で皆様のお役に立ちそうなものを順次紹介していきます。

1. マルウェア対策

マルウェア (malware) とは、malicious (悪意ある) + software の合体造語で、悪意あるプログラムの意味です。インターネットのサイトで会員登録したり、ソフトウェアをダウンロードしてパソコンにインストールする時、本来のデータやソフトウェアと一緒にくっついてくるソフトウェアです。

どうしてこんなものを取り込むのか。ソフトウェアのダウンロードの折に各種の確認を求

められますが、「一緒にこれも入れますか?」と聞かれて選択肢の☑を外さないと取り込むことになります。また、アダルトサイトで会員登録をした時、そのサイトがあなたのパソコンにマルウェアを送り込むことがあります。

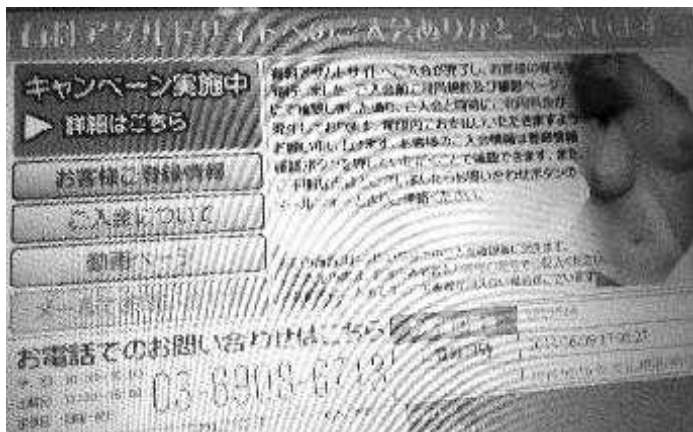
その結果、パソコンを立ち上げた時にソフトウェアの購入広告や入金を促すメッセージが表示されます。通常はこの表示窓の右上の「X」をクリックして消せばよいのですが、相談を受けた事例では、下に表示した画面のメッセージを消しても、また 20 秒で現れ、パソコンの操作ができませんでした。

対策は、3種類あります。

- ① システムの復元：こんな不都合が発生する前の状態に戻す事。復元時点以後のインストール情報は消えますが、作成した文書・画像等は削除されません。復元は、「スタート」－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「システムツール」－「システムの復元」と辿って実行します。
- ② プログラムの削除：表示される広告の会社名・プログラム名をメモしておいて、「プログラムの追加と削除」で関係ありそうなプログラムを削除します。「プログラムの追加と削除」は、「スタート」－「コントロールパネル」－「プログラムと機能」にあります。
- ④ 削除専用プログラムの実行：上に表示した悪質な事例は「ワンクリック詐欺」と言われていて、警視庁等も警戒を呼び掛けています。インターネットで「ワンクリック詐欺」で検索すると事象の説明と対策のサイトが沢山見つかります。これらのサイトからダウンロードしたプログラムを使用して相談者のパソコンから上の表示例を削除しました。

次回以降、先の相談事項を選んで現象と対策をお伝えします。ご希望の項目があれば優先的に記載しますので、ご連絡ください。

対策の表記は、Windows7 の条件で記載しています。Windows Xp、VISTA、8 では表記が少し変わるところがあります。



幕末・維新期の鶴岡八幡宮

山田 務

【鎌倉英人殺害事件】

1. 鎌倉英人殺害事件

元治元年(1864)10月22日、英国陸軍20連隊の士官二人が鶴岡八幡宮の社地御門筋、若宮大路で攘夷浪士に斬殺されるという事件が起こった。事件現場は、大仏からの長谷小路と若宮大路が交わる下馬四つ角(現下馬交差点)付近である。

英国陸軍20連隊は、生麦事件後に外国居留民護衛のため、英仏両国が横浜山手に駐屯させた英軍側の主力部隊である。この英仏横浜駐屯軍は、文久2年から明治8年(1863～1875)までの12年間駐屯し、我国の自衛権が侵害されたことになる。

またこの元治元年は、前年の薩英戦争につき、英仏蘭米の四国連合艦隊の下関砲撃事件(=下関戦争・馬関戦争)が発生し、薩長両藩共に列国の圧倒的な軍事力に屈服させられた年でもあり、やがて攘夷から倒幕への転換点となった年でもある。

2. 外国人遊歩規定

当時、居留地の外国人は十里以内の遊歩が許可されており、横浜の場合は東北が六郷川筋、西南は酒匂川筋の範囲であった。その中で、乗馬ならば日帰りも可能であった、金沢―鎌倉―江の島の行楽コースが一番の人気であった。

横浜に駐屯していた英国陸軍20連隊の士官、ボールドウィン少佐とバード中尉は、10月22日早朝横浜を出発し、金沢の旅籠、福本屋に前日から用意させておいた馬に乗り換え、一路江の島に向かう。江の島でスケッチ及び写真撮影旅行中のワ

ークマンと、ベアト一行と偶然出会った。

この時、藤沢への同行を誘われたが、大仏見物と馬を金沢に預けていることを理由に断った。二人は大仏見物後帰途の途中で、不運にも兇漢に遭遇したのである。(なお、ワークマン一行は3日前の10月19日に出発、金沢に一泊、鎌倉に二泊、藤沢に一泊し、東海道経由で横浜に戻った。ベアトの金沢・鎌倉の多くの写真は、この時撮影されたものであろう。)



3. 死体見分と葬儀

22日深夜、事件の知らせを受けた英国陸軍20連隊は直ちに騎馬隊を派遣し、ムシロをかぶせられていた被害者が彼らの同僚であることを確認した。23日午後、二人の遺体は金沢の東屋に運び込まれ、金沢から舟で横浜に運ばれた。将校集会所での死体見分と証言により、ボールドウィン少佐は即死、バード中尉は致命傷で数刻の間存命

したこと、犯人は浪士二人であることが判明した。

翌24日、二人の葬儀が軍艦や陸上部隊の分遣隊、非番の全士官、横浜の全居留民、多くの日本の高官の臨席のもと盛大に執り行われた。その後、彼等二人の死体は山手の外人墓地に葬られ、現在も二人並んで眠っている。

4. 犯人逮捕と処刑

下関戦争の責任を問われ本国召還を控えていた英国公使オールコックは、幕府老中に対し犯人を捕縛し処罰するよう強硬に申し入れた。

11月17日に、江戸千住で逮捕された犯人の一人、清水清次は、横浜市中の引き廻しの上、神奈川奉行所の刑場(戸部暗闇坂)で斬首刑に処された。

その処刑には、英国陸軍20連隊、海兵二大隊、砲兵隊の半中隊が整列し立ち会った。清水の辞世の句は「とらわれて死ぬる命はおしからず えみしをはらふ大和心に」。その首は吉田橋のもとに3日間さらされたという。

(なおベアトは、このさらし首の残酷な写真も撮影している。)

残る共犯者間宮一^{はじめ}は、翌慶応元年(1865)7月に捕らえられ、清水と同様に刑に処された。

二人の墓は、戸部刑場近くの願成寺(真言宗)に残っている。

鎌倉事件は、このように結着をみたものであるが、数多くの攘夷事件の中で外国人殺傷者が逮捕、裁判にかけられ、しかも処刑された初めての例であった。

5. 余談—若宮大路は電车道?

「吾妻鏡」の寿永元年(1182)3月15日条に「鶴岳の社領より由比ガ浦にいたるまで、曲横を直して詣往の道を造る」とあり、頼朝が妻政子の安産を祈願し、鶴岡八幡宮の社頭から由比ガ浜まで曲横のある道を改修し直線の参詣路を造成した。これが若宮大路で、鎌倉の都市設計基軸線である。また湿地帯であった大路の中央部に土盛りし、一段高い参道を作ったのが段葛である。

この段葛は、当初は浜の鳥居(一の鳥居)までであったとされるが、明応4年(1495)の地震と津波に

より破壊され、江戸末期の頃には下馬四つ角までとなっていた。

明治11年(1878)二の鳥居以南は官有地となり、軍用鉄道であった横須賀線の明治22年の敷設工事により、段葛は円覚寺境内と共に大きく寸断された。更に追い打ちをかけたのが江ノ電の鎌倉への延伸工事である。

明治36年藤沢～片瀬間を営業開始した江ノ電が、待望の鎌倉中心部に乗り入れたのは明治43年で、横須賀線高架下を通り若宮大路の鎌倉警察署付近を「小町駅」終点として全線開通した。

江ノ電が昭和24年(1949)に鎌倉駅西口に乗り入れるまで、若宮大路は江ノ電の電车道であった。

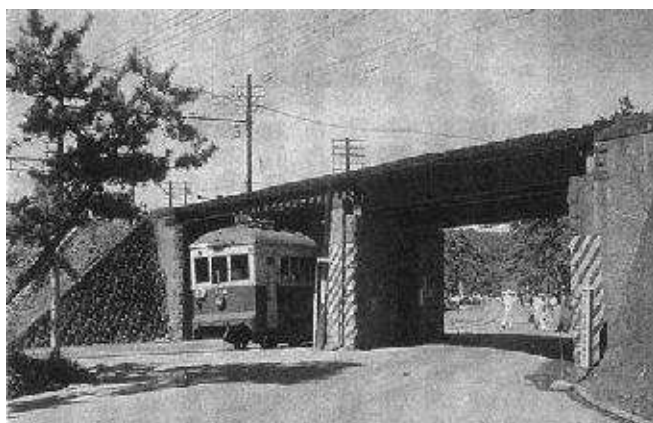


写真2. 横須賀線高架下を通る江ノ電、右奥八幡宮—「江ノ電の100年」より

【参考文献】

- 1) 鎌倉市史編纂委員会編、『鎌倉市史—近世通史編』、第六編第二章、内海 孝、「幕末維新期の鎌倉と外国人」、吉川弘文館(1990)
- 2) 岡田章雄、『鎌倉英人殺害一件』、有隣堂新書(1977)
- 3) 洞 富雄、『幕末維新期の外圧と抵抗』、校倉書房(1977)
- 4) アーネスト・サトウ(坂田精一訳)、『一外交官の見た明治維新(上、下)』、岩波文庫(1960)
- 5) 横浜開港資料館編、『F .ベアト写真集1 幕末日本の風景と人々(新装版)』、明石書店(2006)
- 6) 江ノ島電鉄株編、『江ノ電の100年』、江ノ島電鉄株(2002)

【神仏分離と廃仏毀釈】

1. 神仏分離と廃仏毀釈

明治維新政府は、江戸時代の仏教国教化政策を否定し、神道国教化政策をすすめた。その過程で神社から仏教色を排除しようとしたのが、神仏分離政策である。

新政府は、慶応4年(1868)3月17日に神社の別当・社僧に還俗を命じ、28日には仏教語を神号とする(権現など)神社に事由書の提出を命じるとともに、仏像や本地仏、鰐口、梵鐘などを取り外すことを命じた(神仏判然令)。4月19日には神職者に対し神葬祭を行うよう通達を出している。

これら一連の神仏分離令により、寺院や僧侶を排斥する思想や行動(=廃仏毀釈)を生み、全国的に展開された。その結果、数多くの寺院や堂宇、仏像、仏具、経典などが破壊、焼却され、あるいは四散することになる。

(反面、単に葬祭供養を行うことに終始していた仏教側にも反省を促し、近代的教団へと脱皮させた側面もあった。)

2. 鶴岡八幡宮寺

鶴岡八幡宮は草創の頃から神仏混淆であり、神仏分離以前は仁王門には「鶴岡山」、楼門には「八幡宮寺」の扁額(何れも170世天台座主、曼珠院良恕法親王の揮毫)が掲げられていた。

また祭神はそれぞれ本地仏を有しており、上宮三座の応神天皇(=八幡大菩薩)は阿弥陀如来、神功皇后は観音菩薩、比売神は勢至菩薩であった。

そして東廻廊の座不冷壇所ざさまさのだんしょでは読経が絶えることなく、また神事も供僧が主となり神主、小別当がこれを助けて行われていた。

さらに境内には、赤橋を渡ったところに仁王門があり、門を入り左側に七間四間の護摩堂、経蔵(輪蔵)、右側には十間四方の大塔(多宝塔)、これも十間四方の薬師堂が並び、正面石段を登ると本殿左に愛染堂、右に六角堂などの諸堂宇があった。

このようになっての鶴岡八幡宮は、神社であると同時に寺院であり、むしろ仏教の霊場としての

色彩が強かったのである。

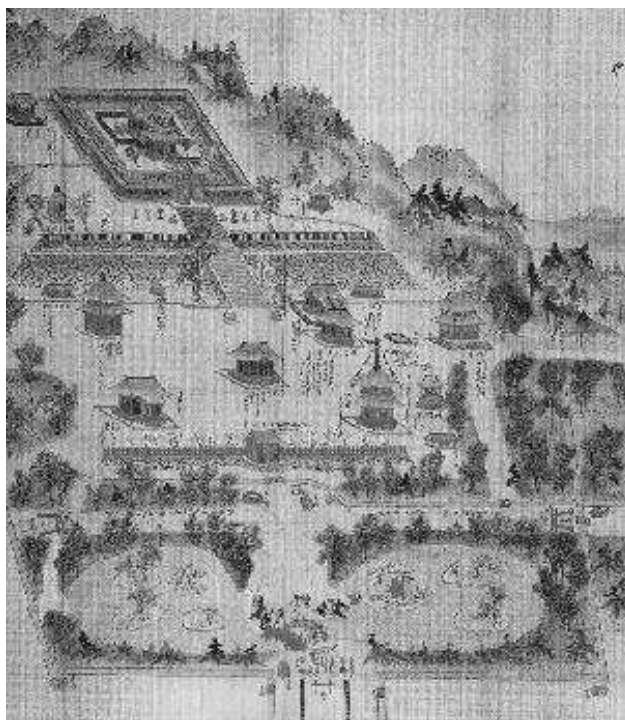


図1. 享保十七年(1732)境内図 一神仏分離前の境内

3. 鶴岡八幡宮の神仏分離

1) 供僧らの還俗

八幡宮は、当初二十五人の供僧が定められ二十五坊と称していたが、院宣により坊号が院号に改められた。幕末の頃は衰微し十二院となっており、その僧侶は全員が反対することなく、明治3年(1870)2月以前に還俗して社人として留まることになった。改名した俗名は、正覚院-菅崎博尹、浄国院-国司信成、香象院-香山良実などである。また八幡宮には旧来より神主として大伴氏がいたことから、従来の勢力を維持するため、「総神主」という名称を新たに作り十二人全員が大伴氏の上位に立つこととなった。

俗人となった供僧は自ら仏像、仏具を放棄し、門前に「僧尼不浄の輩、入るべからず」と掲示し、驚く程の変わり身の早さを示したという。

しかし、明治4年の社領の上地令で経済的に困窮し、明治8年頃には5人しか総神主の職に残っていなかった。

2) 仏教的諸堂宇の破壊

当時の神奈川県庁からしばしば仏教的諸堂宇を取り除くよう催促があったため、僅か十数日の間に諸堂宇を破却したという。

明治3年(1870)5月に八幡宮一社惣代の筥崎博尹から神奈川県庁に、「鎌倉八幡宮御社内在来之薬師堂、護摩堂、大塔(多宝塔)、経蔵(輪蔵)、鐘堂、仁王門、右混淆之仏堂取除、仁王門跡江華表(鳥居)取建、内廊三面、堀垣別紙絵図面之通修理仕候、此段御届申上候、以上」と届けている。(愛染堂、六角堂などは、それ以前の供僧らの還俗と同時期に取り除かれていたらしい。)

そして、破壊された諸堂宇は、古材木として売り払われ、またそれらの中に納められていた仏像、経典、仏具など何れも売却或いは焼棄された。

3) 主な流失品の中で移動先

主な流失品の中で移動先が判明しているものに、彫刻では愛染堂本尊の木造主愛染明王座像(重文→五島美術館)、座不冷壇所の金銅薬師如来坐像(→寿福寺)、十二坊の木造弘法大師坐像(→青蓮寺)、木造十一面観音半跏像(県重文→慶珊寺)が、絵画では僧形八幡神を描いた八幡廻御影(→個人蔵)が、典籍では元版大蔵経5,428巻(重文→浅草寺)、法華経(→妙本寺)が、仏具では大壇・礼盤(重文→青蓮寺)などの優品があり、この他にも所々にその流失品をみることができる。

しかし、神仏分離・廃仏毀釈により失われてしまった数多くの宝物類のことを考える時、その文化財損失はあまりに大きく今日でも惜しまれてならない。

注1) 慶珊寺の木造十一面観音半跏像は、十二院の一つ最勝院から愛染明王坐像と共に、当時の慶珊寺住職が引き取ったと伝えられる。

注2) 浅草寺の元版大蔵経は、貞運尼が托鉢で得た資金で買い求め浅草寺に奉納したといい、その移送に力をかけたのが、侠客-新門辰五郎だと伝えられており、いかにも浅草らしい。



写真3. F.バート、大塔(多宝塔)

【参考文献】

- 1) 鎌倉市史編纂委員会編、『鎌倉市史一社寺編』、吉川弘文館(1979)
- 2) 鎌倉市史編纂委員会編、『鎌倉市史一近代通史編』、吉川弘文館(1994)
- 3) 貫 達人、『鶴岡八幡宮寺一鎌倉の廃寺』、有隣堂新書(1996)
- 4) 神奈川県文化財協会、『鶴岡八幡宮一御鎮座八百年記念』、神奈川県文化財協会(1979)
- 5) 圭室文雄『神仏分離』、教育社歴史新書(1991)
- 6) 辻 善之助他共著、『明治維新神仏分離史料 第3巻』、名著出版(1970)
- 7) 三浦勝男、『鶴岡八幡宮と神仏分離一社蔵宝物等の移動について(一)、(二)』、三浦古文化 第4号(1968)、第7号(1970)
- 8) 佐伯隆定、『武州富岡史話』、真言宗御室派慶珊寺(2013)

【明治天皇の鎌倉行幸】

1. 明治天皇の鎌倉行幸

慶応3年(1867)12月9日に王政復古になると、天皇はもはやペールにつつまれた神秘的な存在ではなく、権威と権力を兼ね備えた新しい日本の支配者であることを、広く国民に知らしめようと、天皇は頻繁に行幸するようになった。(特に神奈川県には51回行幸され、全国中最多である。)

その中で明治6年(1873)4月、鎌倉の地で行われた陸軍野営演習を天覧することを目的に、明治天皇の鎌倉行幸が行われた。

14日午前6時半皇居を出立、宮内卿徳大寺実則、宮内大輔万里小路博房他侍従、侍医、御練兵御用掛岡田善良らを従え、太政大臣以下百官の奏送裡に新橋停車場を出発した。7時40分神奈川停車場に到着、馬車に乗り保土ヶ谷を経て10時に戸塚御昼餐所に到着、11時半騎馬で戸塚を発御、途中小袋谷村で演習を天覧している。次いで午後1時半軍楽隊の奏楽の中鎌倉行在所(鶴岡八幡宮祠官宮崎博伊宅、現鶴岡文庫)に到着した。

翌15日午前9時、大雨強風の中、行在所を騎馬で出門、鶴岡八幡宮前における演習参加部隊の点検式、分列式に臨み、終了後八幡宮背後の大臣山に登り、教導団歩兵第1大隊、同付属歩兵5番大隊の対抗演習を閲し八幡宮へ参拝。午後は軍楽隊の奏楽を聞き八幡宮の宝物などを閲覧した。

16日は雨は止んだがなお強風の中、午前8時半に鎌倉宮を参拝、玉串を奠して幣帛料、神饌料を供した。この後10時10分には騎馬で江ノ島に赴き岩窟、捕魚の状等を天覧有りて江ノ島を発し、午後2時過ぎに藤沢に到着、行在所(清浄光寺)に入り御一泊、17日には東京に戻っている。



図2. 明治天皇の閲兵式、鳥居下が明治天皇、「ル・モンド・イリュストレ」1874年10月24日号

2. 日本初の陸軍対抗演習

社殿に向かって右手に入り八幡宮背後の大臣山(標高約50m、立ち入り禁止)の入口に「明治天皇閲兵之處」と「明治天皇鎌倉御野立所」の石碑が立っている。これが我国最初の陸軍対抗演習を明治天皇が天覧した記念碑である。

明治6年、陸軍教導団(陸軍下士官養成所)は、鎌倉で2月10日から約60日間野営演習を挙行した。指揮長官は陸軍少将曾我祐準^{まげのり}で教導団歩兵第1大隊、同付属歩兵第5番大隊を率いて演習を指揮した。演習本部は八幡宮前の角正旅館に、演習部隊は建長寺及び光明寺に分宿し、由比ガ浜を中心としてその周辺及び鎌倉七口の隘路を利用して各種の演習を行った。

演習地を鎌倉とした経過については、「明治天皇鎌倉行幸御事蹟」に詳しいが、軍部は将来の幹部となるべき養成中の教導団生徒に実際的な訓練を野外で行う必要があるとして、その野営地選定のため明治5年11月、兵学権頭陸軍大佐(後中將)曾我祐準、御雇教師仏人工シユマンを鎌倉に出張させ実地調査させている。

その結果、同地が海と山に囲まれた要害の地で

あり、演習に適するとの復命を受け決定に至ったという。翌6年1月、陸軍大輔山縣有朋より正院に届出、かつ演習地及び沿道の管轄官庁に到達された。

15日明治天皇の天覧の下、教導団歩兵第1大隊、同付属歩兵5番大隊(計1,300余名)の対抗演習が、八幡宮境内を中心に開始された。その戦闘展開の想定は、攻兵隊が金沢口より侵入し大倉を経由して、八幡宮境内を占拠する守兵隊を攻撃するというものであった。

天皇が閲兵所に臨御されるや、開戦の合図を以って行動を開始。攻兵隊は次第に八幡宮に迫ったが、守兵隊の反撃で一時後退を余儀なくされた。しかし、攻兵隊は予備隊の増援により再び反撃に転じたため、守兵隊は退去に退去を重ね第3守禦線まで追い詰められていった。いったんは第2守禦線を恢復したが、攻兵隊の猛攻のため再び第3守禦線に退き、残余の援隊を以て防御に努めたが八幡宮境内を支えることができず、ついに小袋坂に敗退した。

かくて高らかに響く号音を合図に演習終了。攻守両隊とも八幡宮境内に集合整列し、ここに栄えある天覧演習を終えた。

3. 鎌倉宮の創建

維新政府が天皇を中心とする中央集権国家の形成に邁進していくに際して、徳川幕府の東照宮に替わる新しい価値の創出が必要とされた。

その流れの中で生まれたのが南朝顕彰運動であり、南朝殉職者の神社創建が促進され、楠木正成に次いで取り上げられたのが護良親王であった。明治天皇の仰せにより、後醍醐天皇の皇子で中先代の乱(1335年)で鎌倉幽閉中に殺害された護良親王(大塔宮)の終焉の地(東光寺旧跡)に、神社を創建する旨が達せられ、明治2年4月に創建された。

この日本で唯一天皇の命による神社創建という由緒をもつ鎌倉宮に、前述の通り明治6年4月に天皇自ら御参拝されたのである。(また鎌倉には倒幕計画に参画し、葛原岡で斬られた日野俊基を祀



写真4. 鎌倉宮(大塔の宮)

る明治20年(1887)創建の葛原神社もある。)

こうした南朝顕彰運動の中で後醍醐天皇の南朝の正統性が強く主張され、戦前の国定教科書では北朝の足利尊氏は「天皇に弓を引いた逆臣」とされていた。しかし、戦後になって国家主義的な国家観(皇国史観)が徹しく批判され、実証的な歴史研究が進展したことにより、足利尊氏の再評価が進められている。

【参考文献】

- 1) 鎌倉市史編纂委員会編、『鎌倉市史一近代通史編』、吉川弘文館(1994)
- 2) 鎌倉市史編纂委員会編、『鎌倉市史一社寺編』、吉川弘文館(1979)
- 3) 石野 瑛、『明治天皇と神奈川県』、武相学園(1961)
- 4) 宮内庁編、『明治天皇紀 第三』、吉川弘文館(1969)
- 5) 長浜つぐお、『明治天皇行幸の軌跡—鎌倉・横須賀・浦賀』、巻末付録-相羽清次編、「明治天皇鎌倉行幸御事蹟」、横須賀の文化遺産を考える会(2010)
- 6) 横浜開港資料館編、『「ル・モンド・イリュストレ」日本関係さしえ集』、横浜開港資料館(1988)
※「ル・モンド・イリュストレ」は、1857年に創刊されたフランスの絵入り新聞

事典編集委員会からの報告

去る5月28日(水)に、区民活動センター会議室において、第1回事典編集委員会を開催した。以下6つの基本方針が決まった。

- ① メインタイトルを『第3版 かねざわの歴史事典』とする。
但し、「第3版」の「3」を「三」にするか、また副題の「INDEX金沢」を削除するかは今後の検討案件とする。
- ② 発行期日を平成30年(2018年)5月に設定する。
- ③ 追加項目の時代範囲は、平成12年(2000年、20世紀末)までを原則とする。
- ④ 今年(平成26年)は、重版作業のとき先送りした項目の処理を行う。
- ⑤ 会議日程は、奇数月の第4土曜日9:30~12:30、区民活動センター。
- ⑥ 『新版 かねざわの歴史事典』の編集方針並びに記載内容を尊重する。

事典編集委員会メンバーは、19名でスタートいたしますが、会員の途中参加は大歓迎です。運営委員や編集委員にお声掛け下さい。あるいは、奇数月の第4土曜日に区民活動センターまでお越しください。お待ちしております。

訃報

平成20年(2008)講師として「金沢八景と能見堂」を講義していただいた山中裕先生が6月13日に老衰のため93歳で逝去されました。

ここに慎んで哀悼の意を表するとともに、ご冥福をお祈りします。

山中裕先生略歴

先生は東京府生まれ、戦前から寺前の薬王寺近くに住まわれていました。

東京帝国大学文学部卒。東大史料編纂所教授・関東学院大学教授・調布学園大学教授を歴任。文学博士。勲三等。

藤原道長を中心とする平安時代の歴史と文学の研究については日本の最高レベルの学者で著書も多数。『栄花物語』を「詩的な歴史書」として研究を深めた。先生編纂の『御堂関白記全註釈』全16巻は特に著名。

(注)『御堂関白記』は道長の日記で国宝、世界記憶遺産に平成25年登録。

横浜市教育委員会文化財調査会の会長を勤

められた(現在の会長は五味文彦氏)。

会長として「上行寺東遺跡保存運動」を推進したが、開発という時代の流れには抗し切れなかった。先生がまとめた金沢区の金石類や寺社の調査報告書は金沢の歴史研究に極めて貴重。六浦文化研究所所長(運営委員に西岡芳文氏・盛本昌広氏など)。横須賀市史を編纂。

“わ”の会の活動、特に『かねざわの歴史事典』刊行については高い評価を頂いていた。学習会の講師も紹介して頂いた。上記のように平成20年(2008)には「金沢八景と能見堂」を講義していただきました。

(熊谷 記)

行事予定

2014年9月～2014年11月の予定

注：表中の「CC」は、「地区センター」の略

	9月	10月	11月
学習会	9月13日(土) 金沢CC 9:30～12:00 慶珊寺と富岡の歴史 慶珊寺住職 佐伯隆定 氏	10月10日(金) 9:00 南部市場管理棟入口集合 (ツ-サト)より(南部市場下車) <探訪>富岡の今昔を巡る	11月8日(土) 能見台CC 9:30～12:00 古文書よりみた泥亀新田開発 古文書を読む会代表 真田雅行 氏
寺社を巡る会	9月19日(金) 集合：小田急伊勢原駅 10:00 テーマ：大山詣で 訪問先：比々多神社、大山寺、 阿夫利神社下社	10月2日(木) 集合：京急久里浜駅 10:00 テーマ：浦賀 訪問先：真福寺、東福寺、浦賀文 化センター、蹄の井、浄林寺	11月6日(木) 集合：JR 東逗子駅 10:00 テーマ：逗子・葉山 訪問先：観蔵院、延命寺、宗泰 寺、 郷土資料館、海宝寺、須賀神社、清 浄寺、森戸神社、玉蔵院
古文書を読む会	9:00～ 東海道中膝栗毛		
	9月11日(木)金沢公会堂 10:00～12:00 宿村・布川家文書 9月25日(木)金沢公会堂 10:00～12:00 江嶋生島事件	10月9日(木)金沢公会堂 10:00～12:00 宿村・布川家文書 10月23日(木)金沢公会堂 10:00～12:00 江嶋生島事件	11月13日(木) 休講 11月27日(木)金沢公会堂 10:00～12:00 江嶋生島事件
ふれあいの道歩こう会	9月18日(木)(予備日 19日) 101回=独自コースNo.18 奥多摩人気コース 棒の折山 東京都・埼玉県	10月8,9日(木,金) (1泊2日) 102回=独自コースNo.19 紅葉と大展望の栗駒山 宮城県・岩手県・秋田県	11月20日(木) (予備日 21日) 103回=独自コースNo.20 秋の紅葉と筑波山 茨城県
懐かしの映画を観る会	9月8日(月)12:30～ 金沢CC 第17捕虜修養所(米) 9月22日(月)12:10～金沢CC 大鹿村騒動紀(日) 第三の男(英)	10月13日(月)12:10～ 金沢CC 上意討ち(日) 10月27日(月)12:10～ 金沢CC 女相続人(米) グレン・ミラー物語(米)	11月10日(月)12:10～ 金沢CC ミスティック・リバー(米) 11月24日(月)12:30～ 金沢C 鉄の女・M・サッチャー(米)
浮雲俳句会	9月28日(日)9:30～金沢CC 第83回例会 テーマ 阿武隈川・芒	10月26日(日)11:30～ 長浜公園界限 第15回金沢区民俳句大会吟 行会への参加	11月30日(日)9:30～金沢CC 第84回例会 テーマ 相模川・枯蟻螂
パソコンを使いこなす会	9月2日(火) 金沢CC Hard Ware実用講座 -パソコン健康診断- 9月16日(火) 金沢CC Explore実用講座 -ファイル管理術-	10月7日(火) 金沢CC Internet実用講座 -フェイスブッカー 10月21日(火) 金沢CC Windows実用講座 -レジストリー	11月4日(火) 金沢CC WORD EXCEL実用講座 -宛名印刷- 11月18日(火) 金沢CC WORD実用講座 -案内ハガキ-
	9:30～12:00	9:30～12:00	9:30～12:00

連絡先： 学習会 785-1639(今井) 寺社を巡る会 784-1460(松本) 古文書を読む会 784-4900(真田)
ふれあいの道歩こう会 782-8147 (小俣) 懐かしの映画を観る 701-1606(佐藤)
浮雲俳句会 774-3878(北野) パソコンを使いこなす会 701-9775(林)

編集後記	発行日	平成26(2014)年8月2日
単なる通過点と言ってしまうとそれまでのことではあるが、毎号いかにしたら会員に喜ばれ親しまれるかをテーマに、極めて限られた「融通性」の中で、苦慮し模索してきた。その思いからすれば、50号は一つの区切りとして、決して小さくはない意味を持つものだと思う。だが、また、この50号記念会報も、果たして会員読者にどれ程の興味・刺激を与えることが出来たのだろうかとの懸念も消えない。(田中)	発行月	4回(2,5,8,11月)
	発行者	金沢区生涯学習“わ”の会
	編集長	大門 利晴
	編集委員	貝田 誠作 田中 徳明
		伊達 一雄 吉田 寿紀 相川 勲 金間 誠一 柴崎 幸治 鈴木 秀幸